

大阪狭山市の教育や生涯学習に関する
市民アンケート結果報告書

令和6年3月

目 次

1	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査方法	1
3	回収結果	1
4	調査結果の表示方法	1
2	調査結果	2
1.	あなたご自身について	2
2.	大阪狭山市の就学前教育・保育や学校教育について	6
3.	家庭教育・地域教育について	15
4.	大阪狭山市の生涯学習・文化・スポーツなどについて	23
5.	大阪狭山市への愛着や市の特長・誇りについて	41
6.	教育に関する施策全般について（自由記述）	44
※	参考資料 アンケート調査票	47

1 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、次期「大阪狭山市教育振興基本計画」を策定するにあたり、市民から本市の教育や生涯学習に関する評価や意見を伺い、今後の計画策定及び教育施策の検討を進めるための基礎資料とすることを目的として実施したものです。

2 調査方法

調査期間	調査開始:令和6年3月11日(月) 回収期限:令和6年3月25日(月)
調査対象	対象者:市内在住の満16歳以上の市民 抽出方法:住民基本台帳から無作為抽出 対象数:2,000件
調査内容	1. あなたご自身について(7設問) 2. 大阪狭山市の就学前教育・保育や学校教育について(5設問) 3. 家庭教育・地域教育について(4設問) 4. 大阪狭山市の生涯学習・文化・スポーツなどについて(12設問) 5. 大阪狭山市への愛着や市の特長・誇りについて(2設問) 6. 教育に関する施策全般について(1設問) 合計:45設問
調査方法	発送:郵送により調査票を配布 回収:郵送またはオンラインで回答を回収

3 回収結果

配布数	2,000件(うち転居先不明等19件、有効数1,981件)
回収数	745件(内訳:用紙631件、WEB:114件)
有効回収率	37.6%(745/1,981)

4 調査結果の表示方法

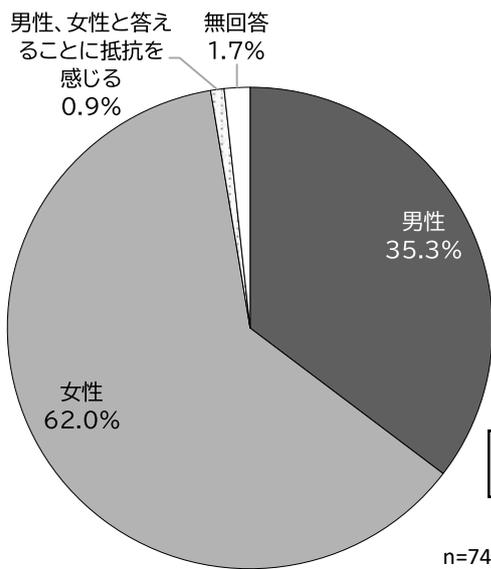
- ・ 回答は各質問の回答者数 (n) を基数とした百分率 (%) で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・ 図表中及び文章中、選択肢などを一部省略して表記している場合があります。
- ・ 単数回答の設問は (SA)、複数回答は (MA)、記入回答は (FA) と表記しています。

2 調査結果

1. あなたご自身について

問1 あなたが思われる性別をお答えください。(ひとつだけ○) 【SA】

- 「女性」の割合が62.0%、「男性」の割合が35.3%となっています。
- 平成31年度調査と比較して、大きな差異はみられません。



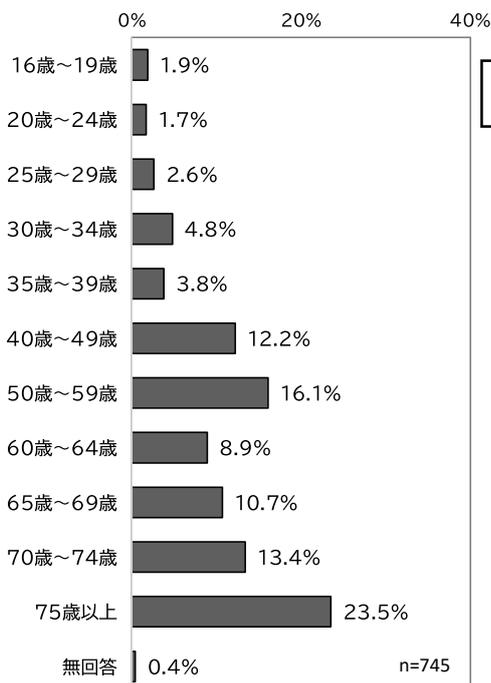
【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
男性	35.3%	33.6%	33.0%
女性	62.0%	63.6%	64.6%
男性、女性と答えることに抵抗を感じる	0.9%	0.6%	0.0%
無回答	1.7%	2.2%	2.4%

今回調査

問2 あなたの現在の年齢をご記入ください。(ひとつだけ○) 【SA】

- 「75歳以上」の割合が23.5%、「50歳～59歳」の割合が16.1%となっています。
- 平成31年度調査と比較すると、「70歳以上」の割合が12.4ポイント高くなっています。



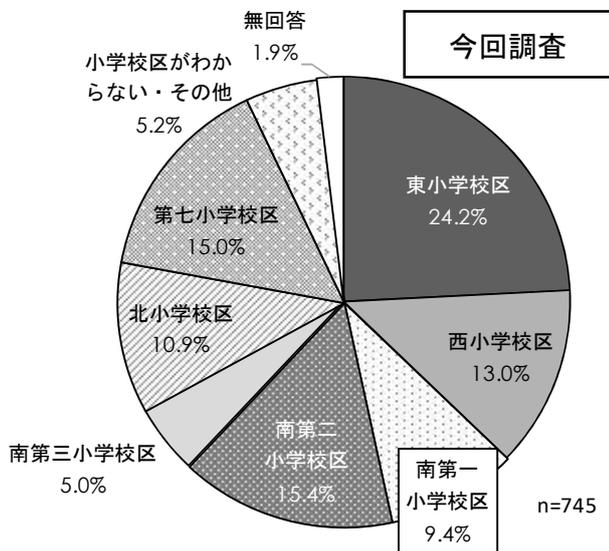
今回調査

【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
16歳～19歳	1.9%	2.4%	3.6%
20歳～29歳	4.3%	6.9%	7.3%
30歳～39歳	8.6%	11.5%	11.9%
40歳～49歳	12.2%	17.8%	16.6%
50歳～59歳	16.1%	14.5%	16.0%
60歳～69歳	19.6%	21.8%	21.9%
70歳以上	36.9%	24.5%	20.2%
無回答	0.4%	0.6%	2.6%

問3 あなたが住んでいる小学校区はどこですか。(ひとつだけ○) 【SA】

○「東小学校区」の割合が 24.2%、「南第二小学校区」の割合が 15.4%、「第七小学校区」の割合が 15.0%となっています。
 ○平成 31 年度調査と比較して、大きな差異はみられません。

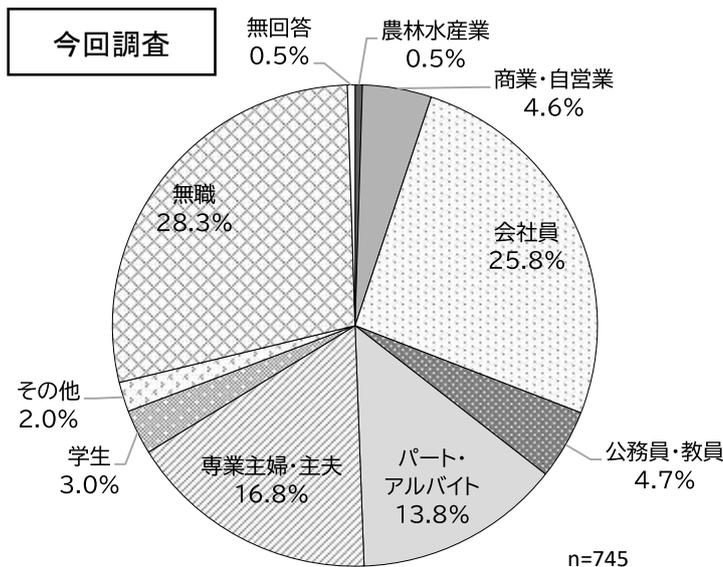


【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
東小学校区	24.2%	21.7%	19.8%
西小学校区	13.0%	14.9%	12.8%
南第一小学校区	9.4%	9.1%	10.1%
南第二小学校区	15.4%	15.9%	15.8%
南第三小学校区	5.0%	4.6%	3.6%
北小学校区	10.9%	11.9%	10.9%
第七小学校区	15.0%	14.2%	14.4%
小学校区がわからない・その他	5.2%	5.8%	7.9%
無回答	1.9%	1.9%	4.7%

問4 あなたの職業は次のうちどれですか。(ひとつだけ○) 【SA】

○「無職」の割合が 28.3%、「会社員」の割合が 25.8%となっています。
 ○平成 31 年度調査と比較すると、「無職」の割合が 8.1 ポイント高くなっています。

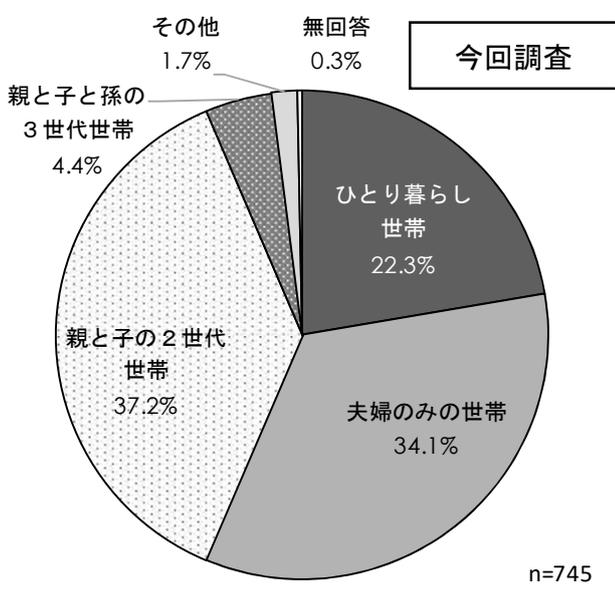


【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
農林水産業	0.5%	0.4%	0.0%
商業・自営業	4.6%	4.9%	4.9%
会社員	25.8%	21.4%	23.3%
公務員・教員	4.7%	4.9%	3.0%
パート・アルバイト	13.8%	17.7%	15.6%
専業主婦・主夫	16.8%	21.4%	20.4%
学生	3.0%	4.0%	5.5%
その他	2.0%	4.3%	3.8%
無職	28.3%	20.2%	20.9%
無回答	0.5%	0.9%	2.6%

問5 あなたの世帯構成はどのようになっていますか。(ひとつだけ○) 【SA】

○「親と子の2世代世帯」の割合が 37.2%、「夫婦のみの世帯」の割合が 34.1%、「ひとり暮らし世帯」の割合が 22.3%となっています。
 ○平成 31 年度調査と比較すると、「ひとり暮らし世帯」の割合が 14.5 ポイント高くなっています。

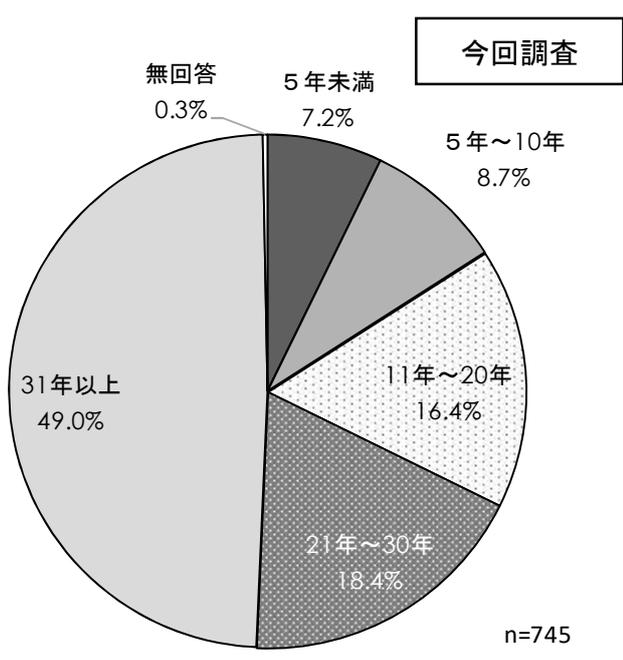


【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
ひとり暮らし世帯	22.3%	7.8%	7.1%
夫婦のみの世帯	34.1%	31.7%	31.4%
親と子の2世代世帯	37.2%	51.0%	50.2%
親と子と孫の3世代世帯	4.4%	6.2%	7.1%
その他	1.7%	2.4%	1.6%
無回答	0.3%	0.9%	2.6%

問6 あなたは、大阪狭山市に住んで何年になりますか。(ひとつだけ○) 【SA】

○「31年以上」の割合が 49.0%、「21年～30年」の割合が 18.4%となっています。
 ○平成 31 年度調査と比較して、大きな差異はみられません。

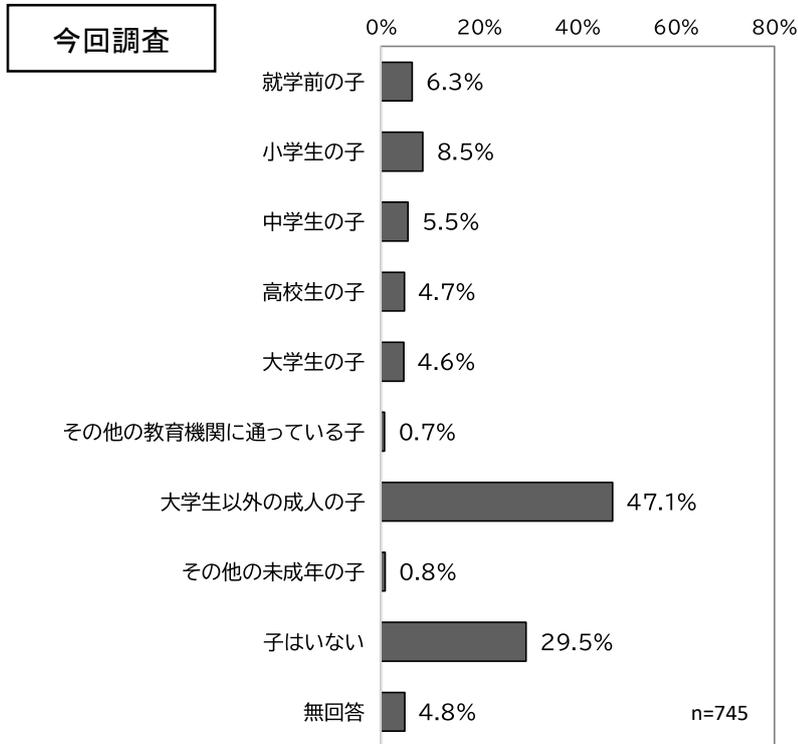


【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
5年未満	7.2%	9.0%	9.9%
5年～10年	8.7%	5.8%	8.7%
11年～20年	16.4%	20.4%	19.8%
21年～30年	18.4%	20.4%	19.6%
31年以上	49.0%	44.1%	39.7%
無回答	0.3%	0.4%	2.3%

問7 あなたには下記の項目に当てはまる子どもはいますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。※自立・独立、別居されている場合も含みます。【MA】

○「大学生以外の成人の子」の割合が47.1%、「子はいない」の割合が29.5%となっています。
○平成31年度調査と比較して、大きな差異はみられません。



【過去調査比較】

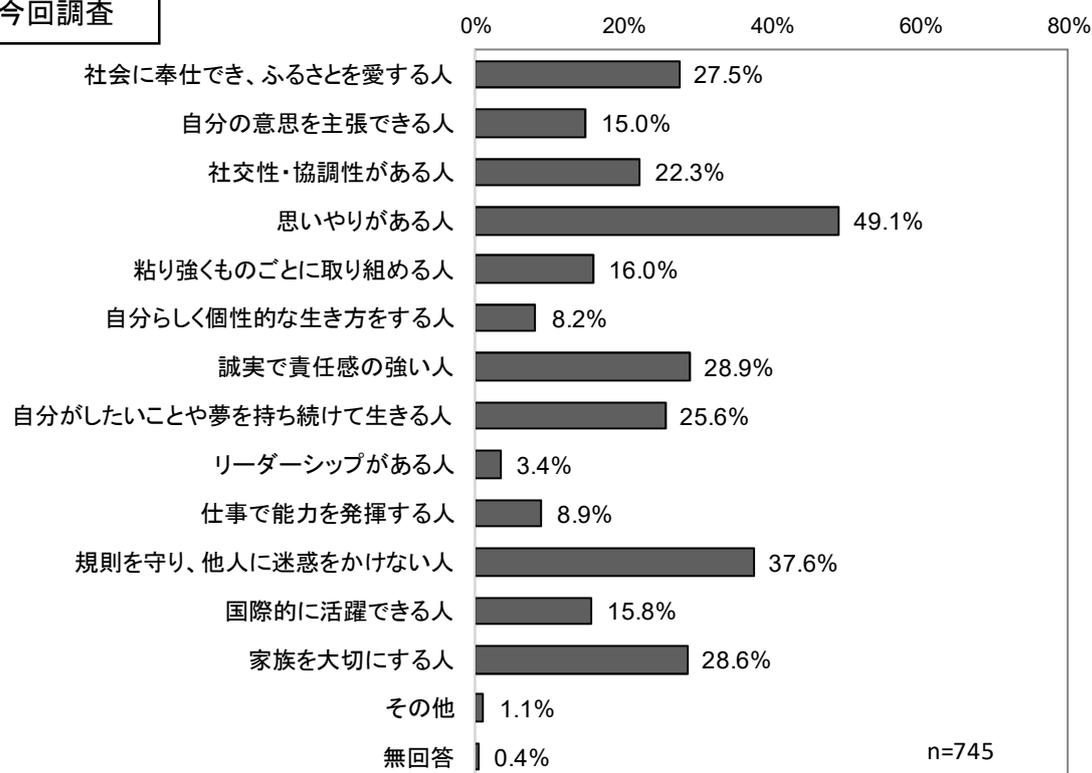
区分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
就学前の子	6.3%	7.8%	5.9%
小学生の子	8.5%	8.4%	6.1%
中学生の子	5.5%	6.3%	5.7%
高校生の子	4.7%	7.5%	6.7%
大学生の子	4.6%	7.4%	7.3%
その他の教育機関に通っている子	0.7%	1.3%	1.6%
大学生以外の成人の子	47.1%	50.9%	49.4%
その他の未成年の子	0.8%	1.2%	0.0%
子はいない	29.5%	23.5%	26.3%
無回答	4.8%	2.4%	4.0%

2. 大阪狭山市の就学前教育・保育や学校教育について

問8 あなたは、大阪狭山市の子どもたちに、将来どのような人になってもらいたいと思いますか。(主なもの3つまで) 【MA】

- 「思いやりがある人」の割合が最も高く49.1%、次いで「規則を守り、他人に迷惑をかけない人」の割合が37.6%、「誠実で責任感の強い人」の割合が28.9%、「家族を大切にする人」の割合が28.6%となっています。
- 平成31年度調査と比較すると、「規則を守り、他人に迷惑をかけない人」の割合が12.3ポイント低下する一方、「社会に奉仕でき、ふるさとを愛する人」が9.5ポイント、「国際的に活躍できる人」が5.3ポイント増加しています。

今回調査



【過去調査比較】

区分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
社会に奉仕でき、ふるさとを愛する人	27.5%	18.0%	21.7%
自分の意思を主張できる人	15.0%	16.1%	13.0%
社交性・協調性がある人	22.3%	20.1%	18.0%
思いやりがある人	49.1%	52.5%	57.7%
粘り強くものごとに取り組める人	16.0%	15.8%	16.8%
自分らしく個性的な生き方をする人	8.2%	9.7%	5.1%
誠実で責任感の強い人	28.9%	28.8%	31.0%
自分がしたいことや夢を持ち続けて生きる人	25.6%	22.0%	19.8%
リーダーシップがある人	3.4%	3.8%	4.0%
仕事で能力を発揮する人	8.9%	7.1%	6.3%
規則を守り、他人に迷惑をかけない人	37.6%	49.9%	54.0%
国際的に活躍できる人	15.8%	10.5%	9.9%
家族を大切にする人	28.6%	31.6%	25.7%
その他	1.1%	0.7%	0.8%
無回答	0.4%	2.4%	2.2%

○【回答者の年齢別】では、10 歳代を除く全ての年代で「思いやりがある人」の割合が最も高くなっています。10 歳代では「自分がしたいことや夢を持ち続けて生きる人」の割合が最も高くなっています。

○【子どもの年代別】では、就学前・小学生・中学生で「思いやりがある人」、高校生では「社交性・協調性がある人」の割合が最も高くなっています。

【回答者年代別比較】

区分	有効回答数(件)	社会に奉仕できる人	自分の意思を主張できる人	社交性・協調性がある人	思いやりがある人	粘り強い人	自分らしく生きる人	誠実で責任感の強い人	夢を持ち続ける人	自分がしたいことをやる人	リーダーシップがある人	仕事で能力を発揮する人	迷惑をかける人	規則を守り、他人に迷惑をかける人	国際的に活躍できる人	家族を大切にしている人	その他	無回答
16歳~19歳	14	28.6%	14.3%	14.3%	50.0%	-	14.3%	28.6%	57.1%	-	14.3%	35.7%	7.1%	28.6%	-	-	-	
20歳~29歳	32	18.8%	18.8%	28.1%	40.6%	12.5%	15.6%	25.0%	31.3%	-	6.3%	31.3%	25.0%	28.1%	-	-	-	
30歳~39歳	64	25.0%	14.1%	34.4%	53.1%	7.8%	9.4%	14.1%	31.3%	1.6%	9.4%	31.3%	14.1%	39.1%	1.6%	-	-	
40歳~49歳	91	22.0%	13.2%	28.6%	57.1%	17.6%	13.2%	23.1%	22.0%	5.5%	12.1%	28.6%	15.4%	27.5%	-	-	-	
50歳~59歳	120	28.3%	16.7%	24.2%	45.0%	13.3%	11.7%	25.8%	28.3%	2.5%	8.3%	35.8%	18.3%	23.3%	1.7%	-	-	
60歳~69歳	146	26.0%	13.7%	19.9%	52.7%	14.4%	7.5%	28.1%	27.4%	5.5%	8.2%	46.6%	19.2%	20.5%	0.7%	-	-	
70歳以上	275	31.6%	15.3%	17.5%	46.5%	20.4%	4.0%	36.7%	21.5%	2.9%	8.0%	39.3%	13.1%	33.1%	1.5%	0.7%	-	

【子どもの年代別比較】

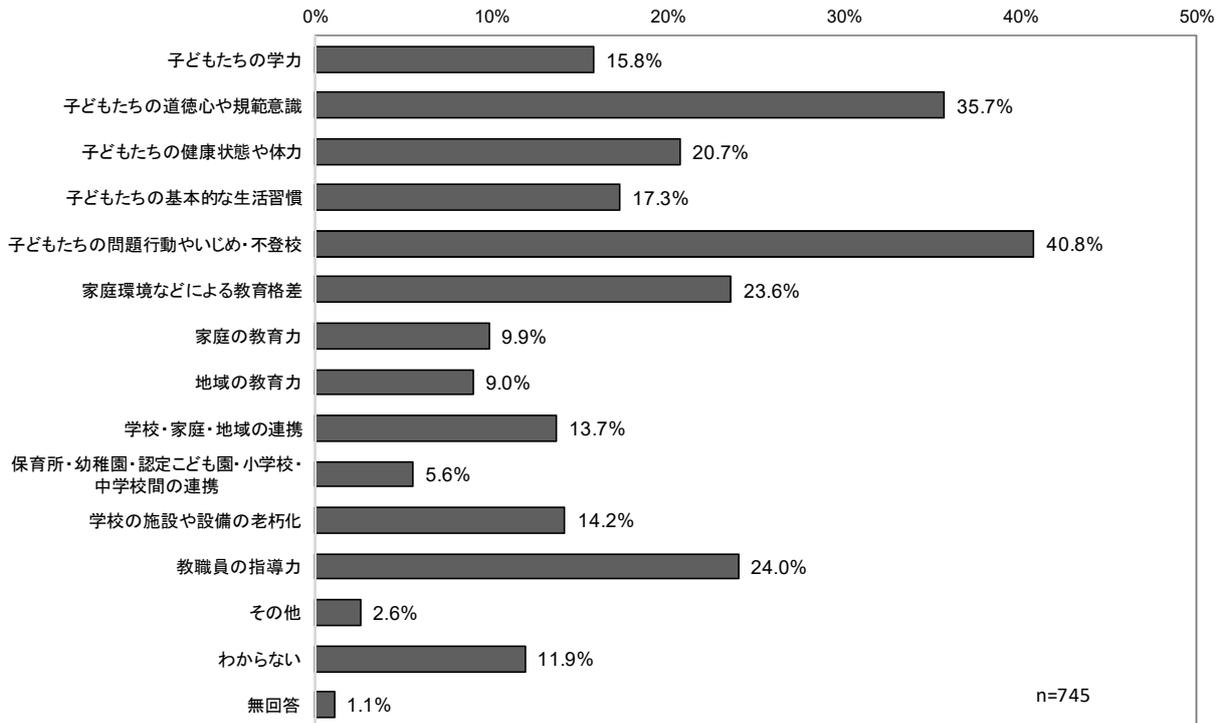
区分	有効回答数(件)	社会に奉仕できる人	自分の意思を主張できる人	社交性・協調性がある人	思いやりがある人	粘り強い人	自分らしく生きる人	誠実で責任感の強い人	夢を持ち続ける人	自分がしたいことをやる人	リーダーシップがある人	仕事で能力を発揮する人	迷惑をかける人	規則を守り、他人に迷惑をかける人	国際的に活躍できる人	家族を大切にしている人	その他
就学前の子	47	23.4%	23.4%	27.7%	53.2%	21.3%	4.3%	8.5%	29.8%	6.4%	4.3%	31.9%	12.8%	40.4%	2.1%	-	-
小学生の子	63	14.3%	20.6%	30.2%	57.1%	27.0%	7.9%	19.0%	31.7%	-	11.1%	33.3%	12.7%	31.7%	-	-	-
中学生の子	41	26.8%	24.4%	39.0%	41.5%	24.4%	9.8%	22.0%	22.0%	2.4%	7.3%	19.5%	19.5%	31.7%	-	-	-
高校生の子	35	22.9%	11.4%	40.0%	37.1%	17.1%	17.1%	25.7%	34.3%	5.7%	11.4%	31.4%	11.4%	34.3%	-	-	-

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

問9 あなたは、大阪狭山市の子どもたちの教育について、どんなことに不安がありますか。
(主なもの3つまで) 【MA】

○「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」の割合が 40.8%と最も高く、次いで「子どもたちの道徳心や規範意識」の割合が 35.7%、「教職員の指導力」の割合が 24.0%となっています。

今回調査



○平成 31 年度調査と比較すると、「子どもたちの問題行動やいじめ・不登校」の割合が 12.8 ポイント高くなる一方、「教職員の指導力」の割合は 10.7 ポイント低下しています。

【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)
子どもたちの学力(の低下※H31)	15.8%	16.1%
子どもたちの道徳心や規範意識(の低下※H31)	35.7%	33.5%
子どもたちの健康状態や体力(の低下※H31)	20.7%	18.1%
子どもたちの基本的な生活習慣(の乱れ※H31)	17.3%	25.1%
子どもたちの問題行動やいじめ・不登校	40.8%	28.0%
家庭環境などによる教育格差	23.6%	22.0%
家庭の教育力(の低下※H31)	9.9%	11.4%
地域の教育力(の低下※H31)	9.0%	5.8%
学校・家庭・地域の連携(不足※H31)	13.7%	12.8%
保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校間の連携(不足※H31)	5.6%	3.5%
学校の施設や設備の老朽化	14.2%	9.3%
教職員の指導力(の低下※H31)	24.0%	13.3%
その他	2.6%	2.1%
わからない	11.9%	18.3%
無回答	1.1%	3.8%

○【子どもの年代別】では、市民全体に比べ、就学前・小学生で「いじめをした子どもを厳しく罰する」「子どもたちの学力」「学校の施設や設備の老朽化」の割合が高くなっています。
 ○中学生では「学校の施設や設備の老朽化」「子どもたちの健康状態や体力」の割合が高くなっています。
 ○高校生では「子どもたちの健康状態や体力」「家庭環境などによる教育格差」の割合が高くなっています。

【子どもの年代別比較】

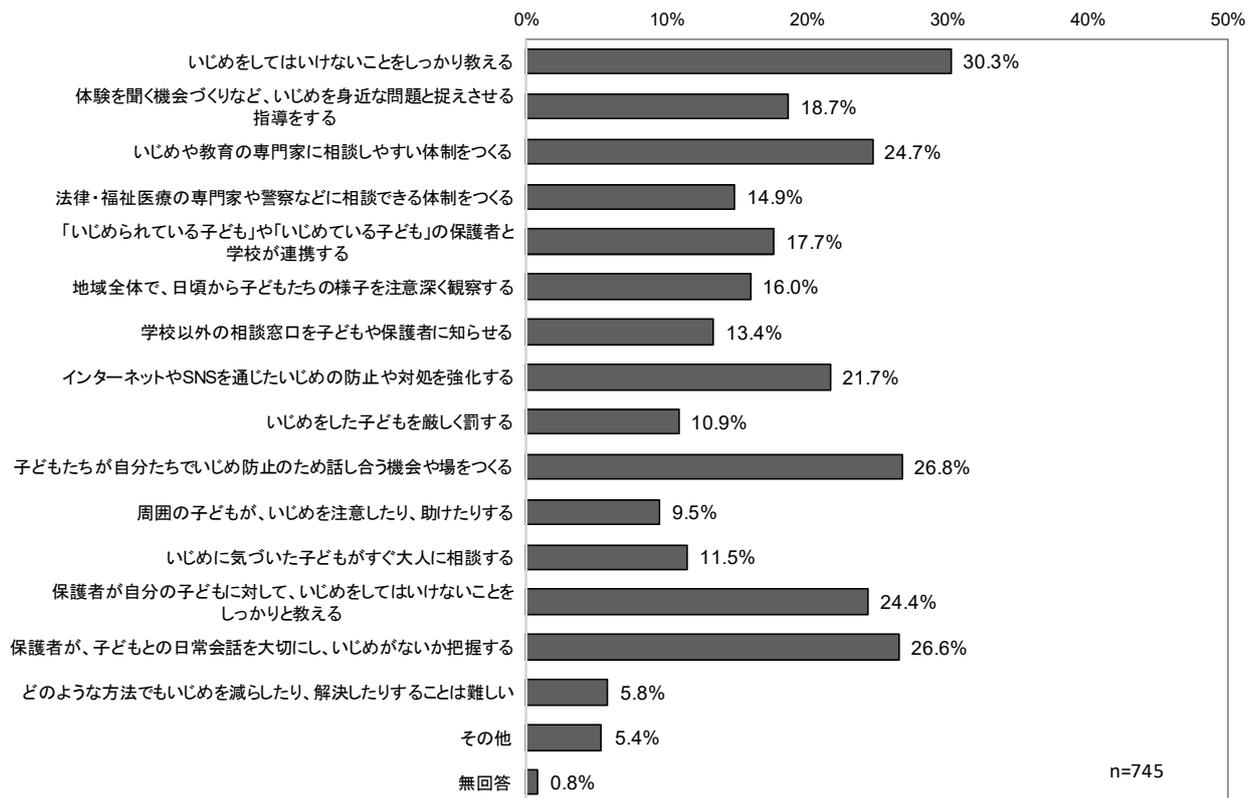
区 分	有効回答数(件)	子どもたちの学力	子どもたちの道徳心や規範意識	子どもたちの健康状態や体力	子どもたちの基本的な生活習慣	子どもたちの問題行動やいじめ・不登校	家庭環境などによる教育格差	家庭の教育力	地域の教育力	学校・家庭・地域の連携	学校間の連携・幼稚園・小学校・認定	保育所・幼稚園・認定	学校の施設や設備の老朽化	教職員の指導力	その他	わからない
就学前の子	47	29.8%	23.4%	23.4%	10.6%	55.3%	17.0%	8.5%	14.9%	12.8%	14.9%	27.7%	31.9%	2.1%	2.1%	
小学生の子	63	28.6%	31.7%	19.0%	15.9%	52.4%	15.9%	9.5%	11.1%	15.9%	4.8%	30.2%	22.2%	1.6%	4.8%	
中学生の子	41	19.5%	36.6%	34.1%	22.0%	41.5%	26.8%	4.9%	4.9%	4.9%	-	24.4%	17.1%	4.9%	7.3%	
高校生の子	35	25.7%	20.0%	34.3%	25.7%	48.6%	34.3%	5.7%	2.9%	20.0%	5.7%	17.1%	22.9%	2.9%	2.9%	

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

問 10 いじめが社会問題になっています。あなたは、いじめについて、どのようなことが特に大切だと思いますか。（主なもの3つまで○） 【MA】

○「いじめをしてはいけないことをしっかり教える」の割合が 30.3%と最も高く、次いで「子どもたちが自分たちでいじめ防止のため話し合う機会や場をつくる」26.8%、「保護者が、子どもとの日常会話を大切に、いじめがないか把握する」26.6%となっています。

今回調査



○平成 31 年度調査と比較すると、「子どもたちが自分たちでいじめ防止のため話し合う機会や場をつくる」の割合が 14.3 ポイント高くなる一方、「地域全体で、日頃から子どもたちの様子を注意深く観察する」の割合が 21.8 ポイントと大きく低下しています。

【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H11調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
いじめをしてはいけないことをしっかり教える (学校でいじめをしてはいけないことをしっかり教える※H1、H25)	30.3%	27.6%	32.8%
体験を聞く機会づくりなど、いじめを身近な問題と捉えさせる指導をする (学校で、いじめの体験談などを聞く機会をつくり、身近な問題と捉えさせる指導をする※H1、H25)	18.7%	19.2%	16.8%
いじめや教育の専門家に相談しやすい体制をつくる (専門家に気軽に相談できる体制をつくる※H1、H25)	24.7%	16.8%	15.6%
法律・福祉医療の専門家や警察などに相談できる体制をつくる (専門家に気軽に相談できる体制をつくる※H1、H25)	14.9%	16.8%	15.6%
「いじめられている子ども」や「いじめている子ども」の保護者と学校が連携する	17.7%	11.2%	13.4%
地域全体で、日頃から子どもたちの様子を注意深く観察する (学校※全体で、日頃から子どもたちの様子を注意深く観察する※H1、H25)	16.0%	37.8%	36.2%
学校以外の相談窓口を子どもや保護者に知らせる	13.4%	14.3%	11.3%
インターネットやSNSを通じたいじめの防止や対処を強化する(インターネットやSNSを通じて行われ るいじめを防止したり、対処するために、保護者が積極的に協力する※H1、H25)	21.7%	12.8%	6.7%
いじめをした子どもを厳しく罰する	10.9%	7.8%	9.5%
子どもたちが自分たちでいじめ防止のため話し合う機会や場をつくる(学校で、子どもたちが自分 たちで防止できるような委員会をつくらせたり、話し合う場をつくらせたりする※H1、H25)	26.8%	12.5%	17.6%
周囲の子どもが、いじめを注意したり、助けたりする (周囲の子どもが、いじめをしている子どもを注意したり、助けたりする※H1、H25)	9.5%	10.6%	11.1%
いじめに気づいた子どもがすぐ大人に相談する (いじめに気づいた子どもは、大人に相談する※H1、H25)	11.5%	17.8%	12.5%
保護者が自分の子どもに対して、いじめをしてはいけないことを しっかりと教える	24.4%	30.8%	40.9%
保護者が、子どもとの日常会話を大切に、いじめがないか把握する	26.6%	24.9%	35.2%
どのような方法でもいじめを減らしたり、解決したりすることは難しい	5.8%	7.5%	9.5%
その他	5.4%	4.6%	4.0%
無回答	0.8%	8.4%	4.2%

○【子どもの年代別】では、総じて市民全体に比べ、「インターネットや SNS を通じたいじめの防止や
対処を強化する」の割合が高くなっています。
○また、就学前で「子どもたちが自分たちでいじめ防止のため話し合う機会や場をつくる」、小学生・
中学生で「法律・福祉医療の専門家や警察などに相談できる体制をつくる」、高校生で「体験を聞
く機会づくりなど、いじめを身近な問題と捉えさせる指導をする」の割合が市民全体に比べて高
く、いじめへの対応策への期待が子どもの年代ごとに異なることを示しています。

【子どもの年代別比較】

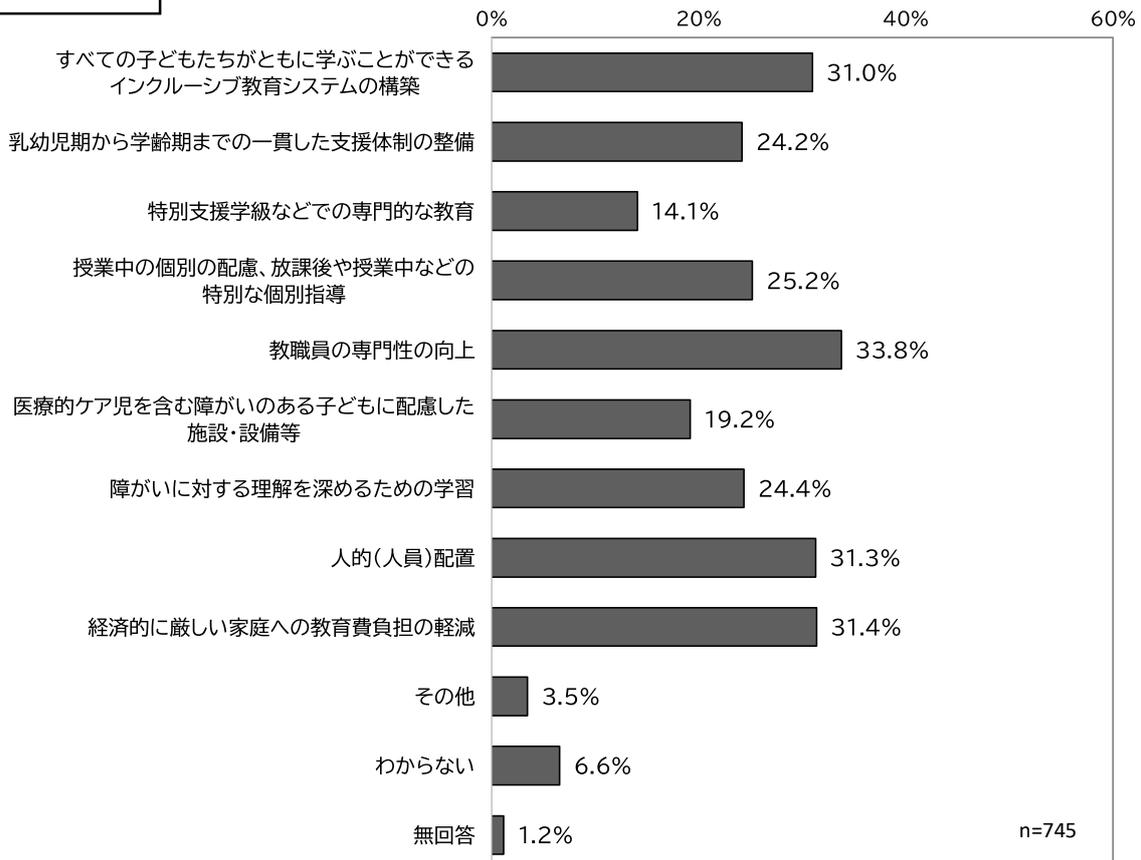
区 分	有効 回答数 (件)	こい じめを しては いけな いこと をわか りかた く教 えるこ と	とど く体験 を聞く 機会を つくる 指導を するこ と	相い 談しめ ややす い体制 をつく るこ と	体や法 制警察 ・福祉 医療の 専門家 などに 相談で きるこ と	連携す るこ と	い じめを 身近な 問題と 捉えさ せるこ と	くど く地域 全体で 日頃か ら注意 するこ と	ど も学校 以外に 専門家 などに 相談で きるこ と	対 処をた たくし て強化 するこ と	しい く罰を するこ と	う いじめ 防止を 強化す るこ と	す を注 意した り、助 けたり するこ と	が い じめを 防止す るこ と	ど い じめを 防止す るこ と	め が ないこ と	保 護者 が い じめを 防止す るこ と	た め の こ と	そ の 他	無 回 答
就学前の子	47	29.8%	14.9%	17.0%	17.0%	23.4%	12.8%	10.6%	29.8%	19.1%	38.3%	14.9%	12.8%	17.0%	25.5%	8.5%	2.1%	-	-	
小学生の子	63	31.7%	9.5%	25.4%	25.4%	20.6%	14.3%	9.5%	23.8%	15.9%	27.0%	12.7%	15.9%	22.2%	23.8%	1.6%	6.3%	3.2%	-	
中学生の子	41	31.7%	17.1%	29.3%	24.4%	22.0%	7.3%	4.9%	26.8%	12.2%	26.8%	4.9%	14.6%	29.3%	24.4%	-	9.8%	-	-	
高校生の子	35	25.7%	28.6%	28.6%	17.1%	14.3%	20.0%	14.3%	28.6%	8.6%	20.0%	8.6%	14.3%	34.3%	20.0%	2.9%	2.9%	-	-	

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

問 11 あなたは、すべての子どもたちの学びを保障するためには、どのような取組みを充実させる必要があると思いますか。(主なもの3つまで) 【MA】

○「教職員の専門性の向上」の割合が 33.8%と最も高く、次いで「経済的に厳しい家庭への教育費負担の軽減」の割合が31.4%、「人的(人員)配置」の割合が31.3%、「すべての子どもたちがともに学ぶことができるインクルーシブ教育システムの構築」の割合が31.0%となっています。

今回調査



- 平成 31 年度調査と比較すると、今回新たに選択肢とした「経済的に厳しい家庭への教育費負担の軽減」が「教職員の専門性の向上」に続く 31.4%を占めました。また、「乳幼児期から学齢期までの一貫した支援体制の整備」の割合も 12.0 ポイント増加しています。
- 一方、「すべての子どもたちがともに学ぶことができるインクルーシブ教育システムの構築」は 16.8 ポイント低下しています。

【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)
すべての子どもたちがともに学ぶことができるインクルーシブ教育システムの構築 (すべての子どもたちがともに学ぶことができる教育の充実※H31)	31.0%	47.8%
乳幼児期から学齢期までの一貫した支援体制の整備 (乳幼児期からの一貫した支援体制の整備※H31)	24.2%	12.2%
特別支援学級などでの専門的な教育(の充実※H31)	14.1%	10.8%
授業中の個別の配慮、放課後や授業中などの特別な個別指導	25.2%	22.4%
教職員の専門性の向上	33.8%	37.2%
医療的ケア児を含む障がいのある子どもに配慮した施設・設備等(の充実※H31)	19.2%	14.3%
障がいに対する理解を深めるための学習(の充実※H31)	24.4%	22.0%
人的(人員)配置(の充実※H31)	31.3%	33.0%
経済的に厳しい家庭への教育費負担の軽減	31.4%	
その他	3.5%	1.6%
わからない	6.6%	4.6%
無回答	1.2%	4.9%

- 【子どもの年代別】では、市民全体に比べ、就学前・小学生で「授業中の個別の配慮、放課後や授業中などの特別な個別指導」「人的(人員)配置」の割合が高くなっています。
- また就学前・高校生では「乳幼児期から学齢期までの一貫した支援体制の整備」、高校生で「すべての子どもたちがともに学ぶことができるインクルーシブ教育システムの構築」の割合も高くなっています。

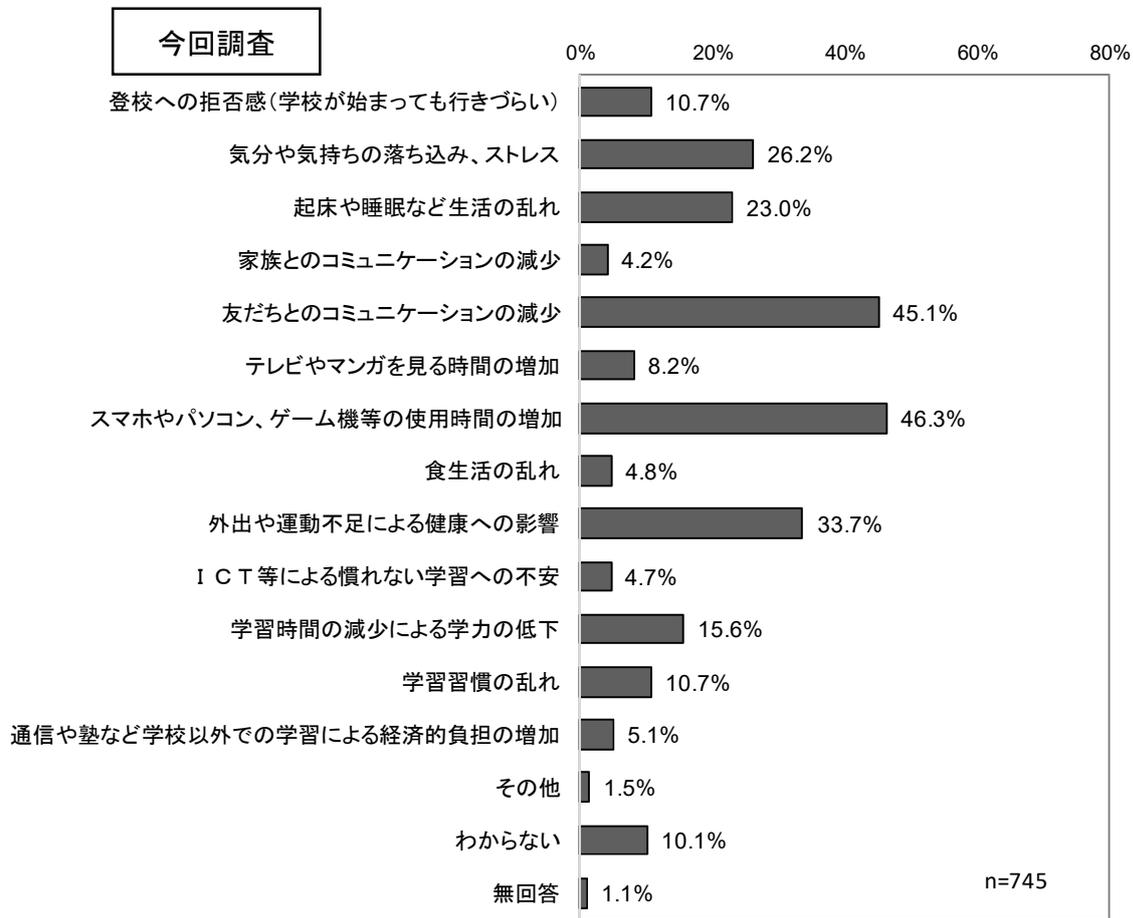
【子どもの年代別比較】

区 分	有効 回答数 (件)	ムン のク の構 築	もす べて のこ ども がと もに 学ぶ こと がで きる 教育 の充 実	備の 一幼 貫児 期か ら支 援学 体制 期ま のま 整で	門特 別な 支 援学 級な どで の専	な個 後業 中 の指 導 業中 の個 別配 慮 、特 別放	教職 員の 専門 性の 向上	た医 療的 ケア 児を 含む 障が いが	め障 がた い に 対 する 理 解を 深	人的 (人 員) 配 置	教経 育済 費的 に 厳 しい 家 庭 へ の	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
就学前の子	47	34.0%	34.0%	6.4%	42.6%	29.8%	14.9%	17.0%	46.8%	23.4%	6.4%	-	2.1%	
小学生の子	63	28.6%	23.8%	11.1%	44.4%	28.6%	15.9%	17.5%	42.9%	22.2%	6.3%	4.8%	4.8%	
中学生の子	41	31.7%	29.3%	17.1%	29.3%	29.3%	14.6%	22.0%	34.1%	31.7%	12.2%	-	4.9%	
高校生の子	35	40.0%	34.3%	8.6%	34.3%	22.9%	17.1%	22.9%	28.6%	28.6%	2.9%	5.7%	-	

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

問 12 コロナ禍において、子どもの教育や生活、健康等において特に心配だったこと、今後心配なことは何ですか。(主なもの3つまで○) 【MA】

○「スマホやパソコン、ゲーム機等の使用時間の増加」の割合が 46.3%と最も高く、次いで「友だちとのコミュニケーションの減少」の割合が 45.1%、「外出や運動不足による健康への影響」の割合が 33.7%となっています。



○【子どもの年代別】では、市民全体に比べ、総じて「外出や運動不足による健康への影響」及び「学習時間の減少による学力の低下」の割合が高くなっています。
 ○また、小学生で「テレビやマンガを見る時間の増加」「スマホやパソコン、ゲーム機等の使用時間の増加」、高校生で「友だちとのコミュニケーションの減少」の割合がそれぞれ高くなっています。

【子どもの年代別比較】

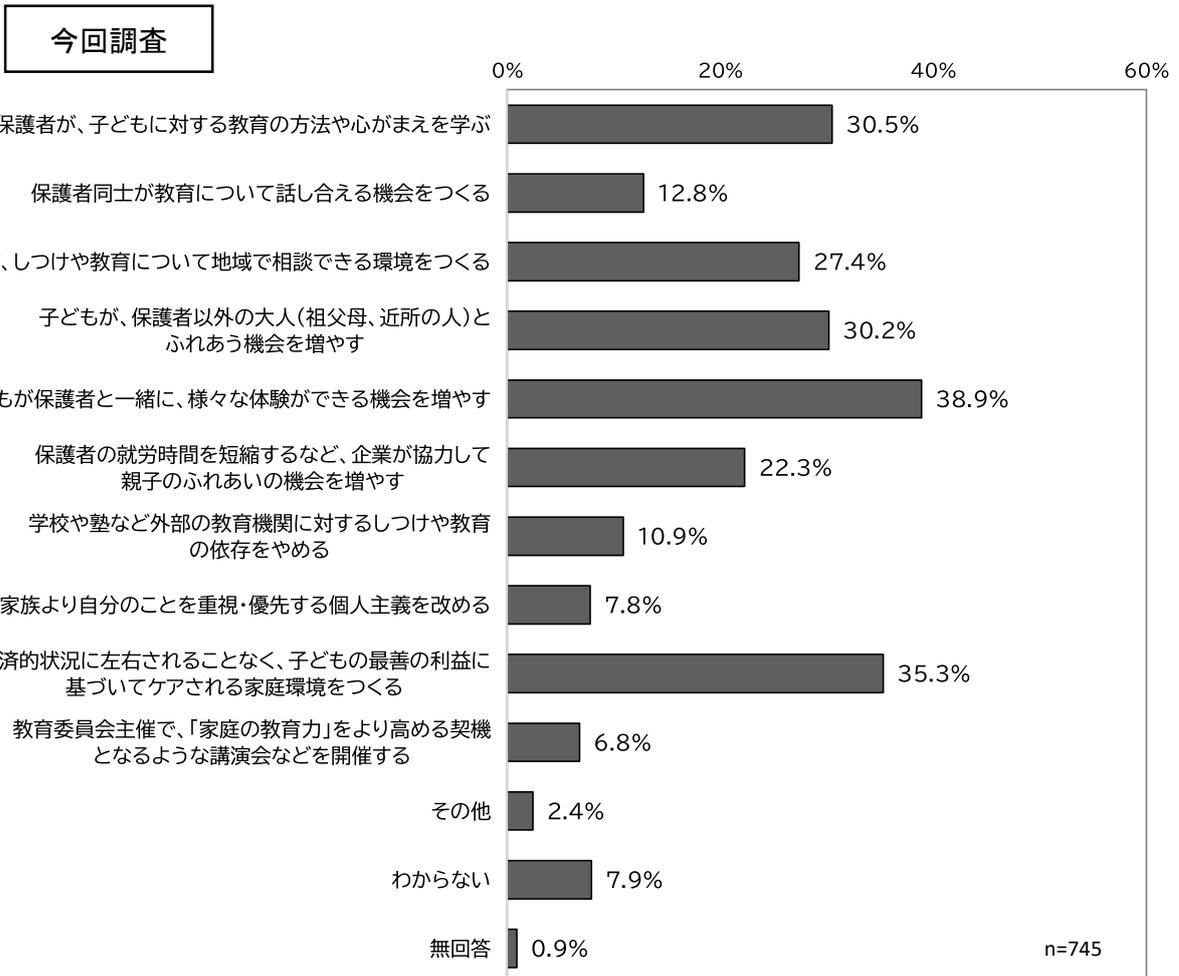
区分	有効回答数(件)	い(登校への拒否感)	が(学校が始まって行きづらい)	登校への拒否感(学校が始まって行きづらい)	気分や気持ちの落ち込み、ストレス	起床や睡眠など生活の乱れ	家族とのコミュニケーションの減少	友だちとのコミュニケーションの減少	テレビやマンガを見る時間の増加	スマホやパソコン、ゲーム機等の使用時間の増加	食生活の乱れ	健康への影響	外出や運動不足による	I C T等による慣れない学習への不安	学習時間の減少による学力の低下	学習習慣の乱れ	通信や塾など学校以外での学習による経済的負担の増加	その他	わからない	無回答
就学前の子	47	8.5%	29.8%	10.6%	-	46.8%	10.6%	36.2%	4.3%	44.7%	6.4%	25.5%	12.8%	10.6%	-	8.5%	2.1%			
小学生の子	63	6.3%	25.4%	19.0%	-	49.2%	20.6%	58.7%	-	36.5%	6.3%	27.0%	12.7%	6.3%	-	-	1.6%			
中学生の子	41	2.4%	31.7%	14.6%	-	58.5%	12.2%	48.8%	2.4%	48.8%	4.9%	26.8%	2.4%	9.8%	4.9%	-	-			
高校生の子	35	14.3%	34.3%	28.6%	-	51.4%	8.6%	60.0%	-	48.6%	-	17.1%	2.9%	5.7%	2.9%	-	-			

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

3. 家庭教育・地域教育について

問 13 あなたは、「家庭の教育力」をより高めていくために、どのような取組みが必要だと思いますか。(主なもの3つまで) 【MA】

○「子どもが保護者と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」の割合が 38.9%と最も高く、次いで「経済的状况に左右されることなく、子どもの最善の利益に基づいてケアされる家庭環境をつくる」の割合が 35.3%、「保護者が、子どもに対する教育の方法や心がまえを学ぶ」の割合が 30.5%、「子どもが、保護者以外の大人(祖父母、近所の人)とふれあう機会を増やす」の割合が 30.2%となっています。



○平成 31 年度調査と比較すると、「子どもが保護者と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」の割合が 12.4 ポイント、また「保護者の就労時間を短縮するなど、企業が協力して親子のふれあいの機会を増やす」の割合も増加する一方、「保護者が、しつけや教育について地域で相談できる環境をつくる」や「保護者が、子どもに対する教育の方法や心がまえを学ぶ」など、保護者自身の取組に対する割合がやや低下しています。

【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
保護者が、子どもに対する教育の方法や心がまえを学ぶ	30.5%	36.6%	43.3%
保護者同士が教育について話し合える機会をつくる	12.8%	15.5%	20.2%
保護者が、しつけや教育について地域で相談できる環境をつくる	27.4%	37.3%	43.7%
子どもが、保護者以外の大人(祖父母、近所の人)とふれあう機会を増やす	30.2%	30.8%	38.9%
子どもが保護者と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす	38.9%	26.5%	37.2%
保護者の就労時間を短縮するなど、企業が協力して親子のふれあいの機会を増やす	22.3%	18.0%	16.6%
学校や塾など外部の教育機関に対するしつけや教育の依存をやめる	10.9%	11.4%	12.8%
家庭内で家族より自分のことを重視・優先する個人主義を改める(家庭内の個人主義を改める※H31、H25)	7.8%	7.2%	11.7%
経済的状況に左右されることなく、子どもの最善の利益に基づいてケアされる家庭環境をつくる	35.3%	36.0%	
教育委員会主催で、「家庭の教育力」をより高める契機となるような講演会などを開催する	6.8%	8.0%	9.7%
その他	2.4%	2.4%	4.2%
わからない	7.9%	6.6%	4.7%
無回答	0.9%	3.2%	4.2%

○【子どもの年代別】では、市民全体に比べ、総じて「保護者の就労時間を短縮するなど、企業が協力して親子のふれあいの機会を増やす」と、企業に対する期待が高くなっています。一方、「保護者が、しつけや教育について地域で相談できる環境をつくる」の割合が低下しており、コロナ禍の外出自粛・制限が影響している可能性があります。

○また、就学前では「保護者同士が教育について話し合える機会をつくる」「子どもが保護者と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす」、中校生では「学校や塾など外部の教育機関に対するしつけや教育の依存をやめる」の割合が高くなっています。

【子どもの年代別比較】

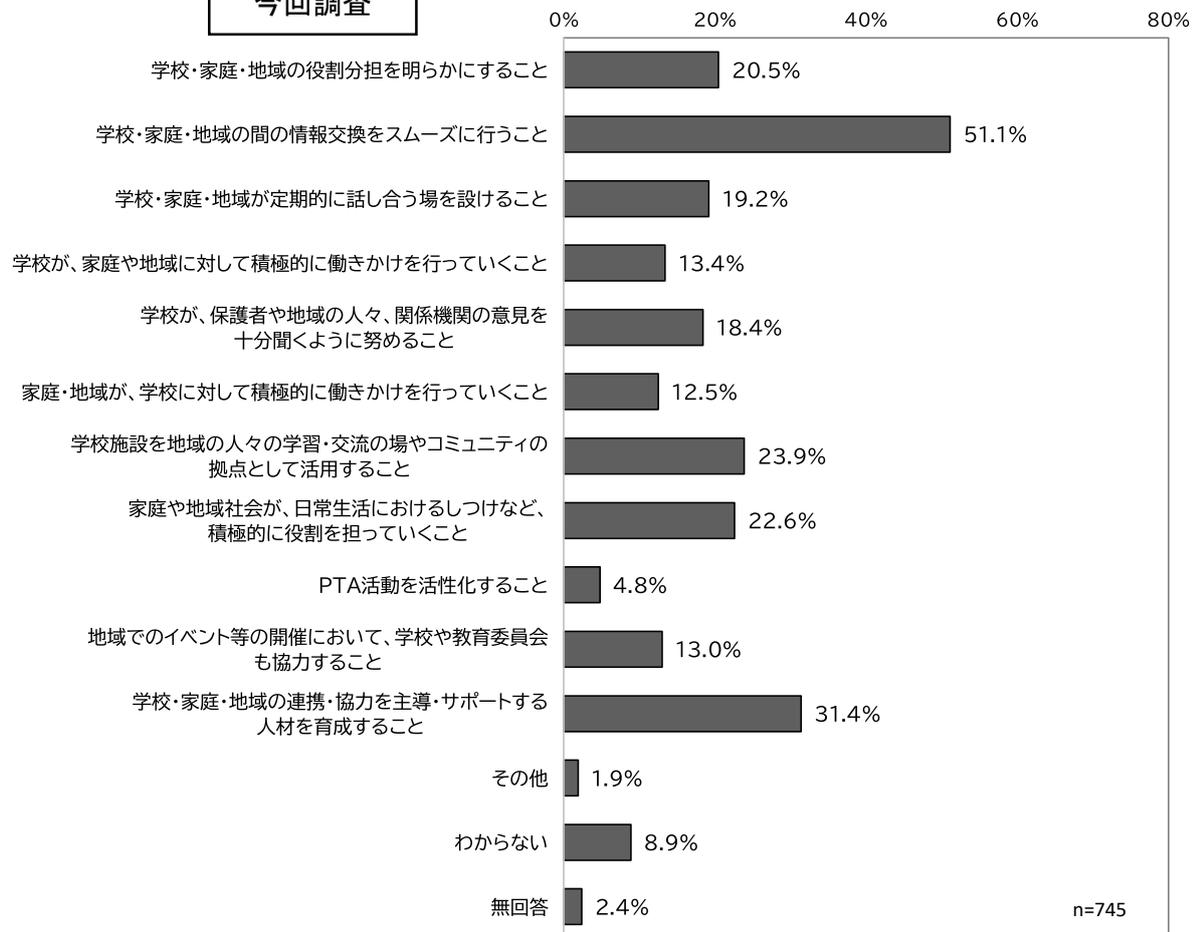
区 分	有効回答数(件)	保護者が教育の方法や心がまえを学ぶ	保護者同士が教育について話し合える機会をつくる	保護者が、しつけや教育について地域で相談できる環境をつくる	子どもが、保護者以外の大人(祖父母、近所の人)とふれあう機会を増やす	子どもが保護者と一緒に、様々な体験ができる機会を増やす	保護者の就労時間を短縮するなど、企業が協力して親子のふれあいの機会を増やす	学校や塾など外部の教育機関に対するしつけや教育の依存をやめる	家庭内で家族より自分のことを重視・優先する個人主義を改める	経済的状況に左右されることなく、子どもの最善の利益に基づいてケアされる家庭環境をつくる	教育委員会主催で、「家庭の教育力」をより高める契機となるような講演会などを開催する	その他	わからない	無回答
就学前の子	47	29.8%	23.4%	10.6%	27.7%	51.1%	36.2%	14.9%	4.3%	31.9%	2.1%	4.3%	2.1%	2.1%
小学生の子	63	27.0%	14.3%	14.3%	20.6%	42.9%	33.3%	19.0%	7.9%	28.6%	1.6%	3.2%	11.1%	1.6%
中学生の子	41	29.3%	7.3%	17.1%	29.3%	46.3%	34.1%	24.4%	4.9%	36.6%	4.9%	7.3%	2.4%	-
高校生の子	35	25.7%	11.4%	20.0%	34.3%	45.7%	34.3%	11.4%	2.9%	42.9%	5.7%	-	5.7%	-

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

問 14 あなたは、学校・家庭・地域が相互の連携・協力を深めていく上で大切なことは何だ
 と思いますか。(あてはまるものすべてに○) 【MA】

○「学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「学
 校・家庭・地域の連携・協力を主導・サポートする人材を育成すること」の割合が 31.4%となってい
 ます。

今回調査



○平成 31 年度調査と比較すると、今回新たに選択肢とした「学校・家庭・地域の連携・協力を主導・サポートする人材を育成すること」が 31.4%を占めました。その影響からか、「家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけなど、積極的に役割を担っていくこと」「学校が、家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと」「家庭・地域が、学校に対して積極的に働きかけを行っていくこと」などの割合が低下しています。

【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)
学校・家庭・地域の役割分担を明らかにすること	20.5%	21.5%
学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと	51.1%	57.4%
学校・家庭・地域が定期的に話し合う場を設けること	19.2%	23.9%
学校が、家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと	13.4%	20.8%
学校が、保護者や地域の人々、関係機関の意見を十分聞くように努めること	18.4%	23.2%
家庭・地域が、学校に対して積極的に働きかけを行っていくこと	12.5%	19.5%
学校施設を地域の人々の学習・交流の場やコミュニティの拠点として活用すること	23.9%	29.6%
家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけなど、積極的に役割を担っていくこと	22.6%	32.4%
PTA活動を活性化すること	4.8%	6.3%
地域でのイベント等の開催において、学校や教育委員会も協力すること	13.0%	18.7%
学校・家庭・地域の連携・協力を主導・サポートする人材を育成すること	31.4%	
その他	1.9%	1.8%
わからない	8.9%	7.1%
無回答	2.4%	3.4%

○【子どもの年代別】でも市民全体と概ね同様の傾向となっています。
 ○そうした中でも、就学前で「学校が、保護者や地域の人々、関係機関の意見を十分聞くように努めること」というアウトリーチに対する期待がやや高くなっています。

【子どもの年代別比較】

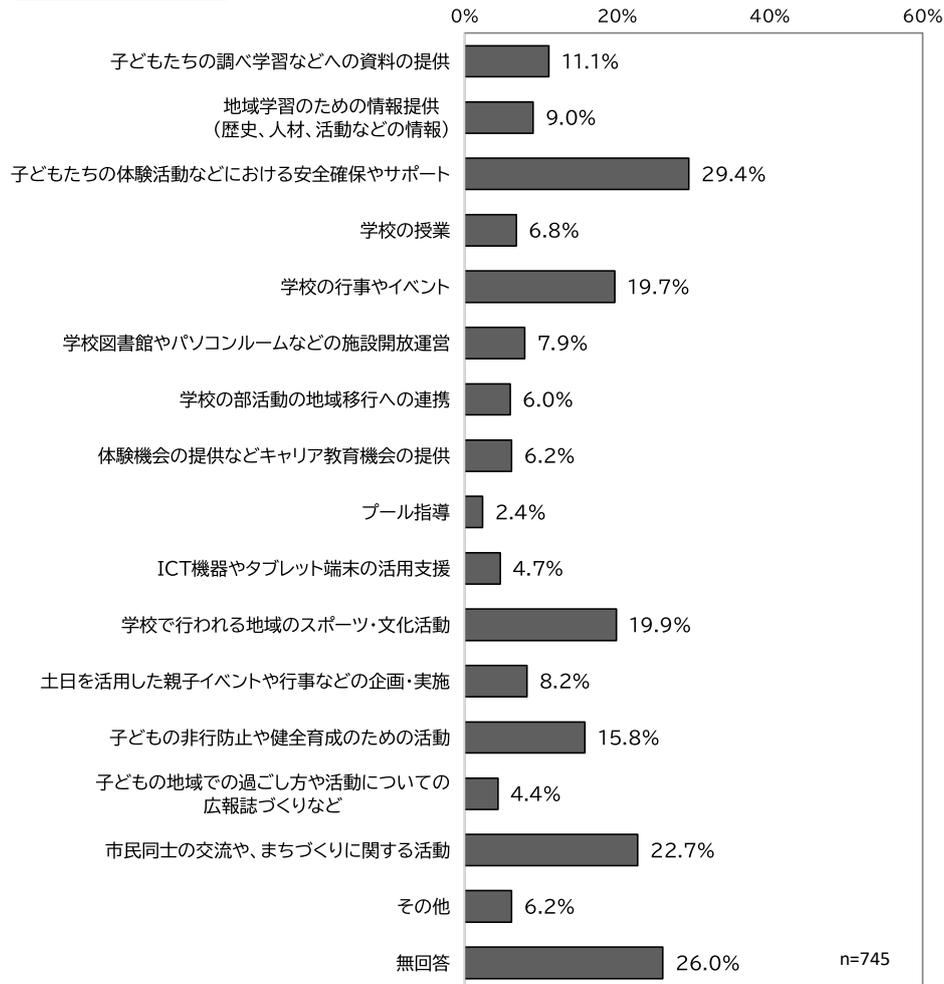
区 分	有効回答数(件)	学校・家庭・地域の役割分担を明らかにすること	学校・家庭・地域間の情報交換をスムーズに行うこと	学校・家庭・地域が定期的に話し合う場を設けること	学校が、家庭や地域に対して積極的に働きかけを行っていくこと	学校が、保護者や地域の人々、関係機関の意見を十分聞くように努めること	家庭・地域が、学校に対して積極的に働きかけを行っていくこと	学校施設を地域の人々の学習・交流の場やコミュニティの拠点として活用すること	家庭や地域社会が、日常生活におけるしつけなど、積極的に役割を担っていくこと	PTA活動を活性化すること	地域でのイベント等の開催において、学校や教育委員会も協力すること	学校・家庭・地域の連携・協力を主導・サポートする人材を育成すること	その他	わからない	無回答
就学前の子	47	19.1%	57.4%	19.1%	23.4%	17.0%	17.0%	23.4%	21.3%	2.1%	14.9%	34.0%	6.4%	6.4%	2.1%
小学生の子	63	25.4%	57.1%	15.9%	14.3%	15.9%	11.1%	19.0%	14.3%	1.6%	14.3%	23.8%	4.8%	6.3%	1.6%
中学生の子	41	29.3%	58.5%	14.6%	9.8%	17.1%	4.9%	29.3%	26.8%	9.8%	9.8%	34.1%	4.9%	2.4%	2.4%
高校生の子	35	22.9%	54.3%	17.1%	11.4%	11.4%	20.0%	31.4%	11.4%	11.4%	11.4%	34.3%	2.9%	8.6%	-

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

問 15 あなたは、今後、地域の学校に対してどのような活動でご協力いただけますか。(あてはまるものすべてに○) 【MA】

○「子どもたちの体験活動などにおける安全確保やサポート」の割合が 29.4%と最も高く、次いで「無回答」の割合が 26.0%、「市民同士の交流や、まちづくりに関する活動」の割合が 22.7%となっています。

今回調査



○平成 31 年度調査と比較すると、今回新たに選択肢とした「学校の授業」「学校の部活動の地域移行への連携」「体験機会の提供などキャリア教育機会の提供」がそれぞれ6%程度の意見を集める一方、「子どもたちの体験活動などにおける安全確保やサポート」「学校の行事やイベント」「子どもの非行防止や健全育成のための活動」の割合がやや低下しています。

【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)
子どもたちの調べ学習などへの資料の提供	11.1%	11.7%
地域学習のための情報提供(歴史、人材、活動などの情報)	9.0%	13.1%
子どもたちの体験活動などにおける安全確保やサポート	29.4%	39.2%
学校の授業	6.8%	
学校の行事やイベント	19.7%	28.6%
学校図書館やパソコンルームなどの施設開放運営	7.9%	9.4%
学校の部活動の地域移行への連携	6.0%	
体験機会の提供などキャリア教育機会の提供	6.2%	
プール指導	2.4%	
ICT機器やタブレット端末の活用支援	4.7%	
学校で行われる地域のスポーツ・文化活動	19.9%	25.1%
土日を活用した親子イベントや行事などの企画・実施	8.2%	13.1%
子どもの非行防止や健全育成のための活動	15.8%	23.6%
子どもの地域での過ごし方や活動についての広報誌づくりなど	4.4%	6.5%
市民同士の交流や、まちづくりに関する活動	22.7%	27.1%
その他	6.2%	2.4%
無回答	26.0%	24.9%

○【子どもの年代別】にみると、市民全体に比べ、総じて「学校の行事やイベント」「子どもたちの調べ学習などへの資料の提供」「学校で行われる地域のスポーツ・文化活動」等の割合が高くなっています。
○また中学生では「子どもたちの体験活動などにおける安全確保やサポート」「子どもの非行防止や健全育成のための活動」の割合もやや高くなっています。

【子どもの年代別比較】

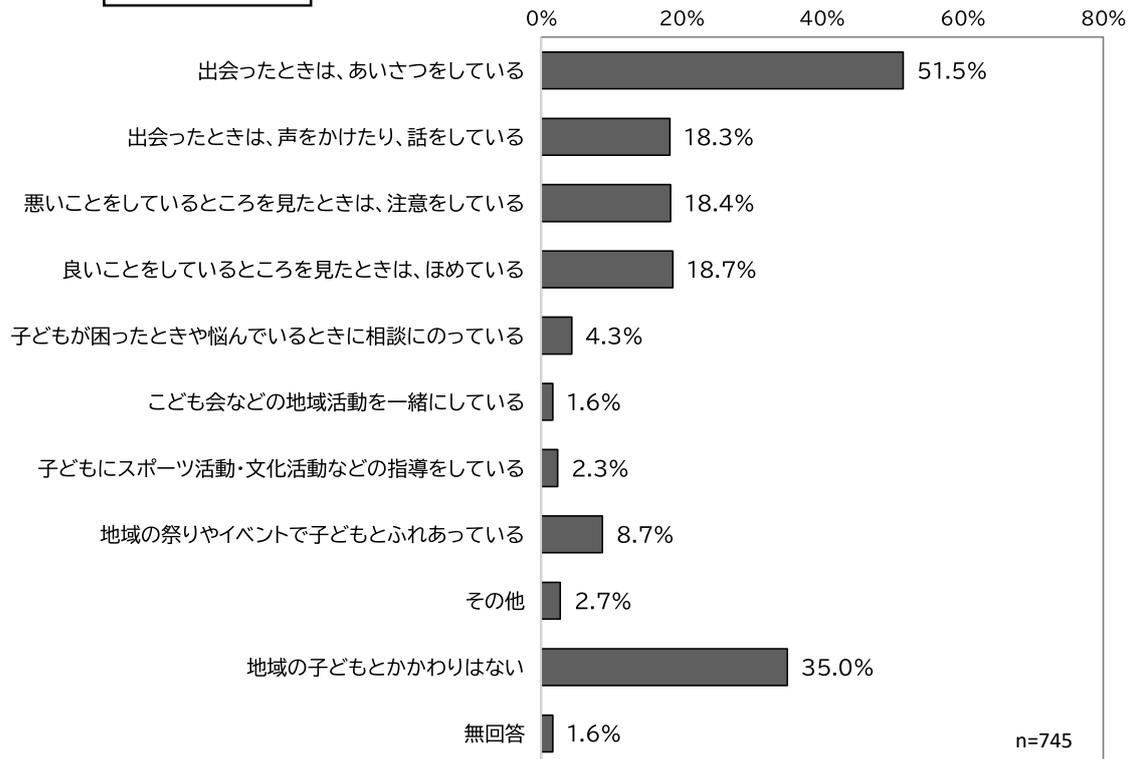
区 分	有効回答数(件)	子どもたちの調べ学習	地域学習のための情報(歴史、人材、活動)	子どもたちの体験活動やサポート	学校の授業	学校の行事やイベント	運営	学校図書館やパソコン開放	学校の部活動の地域移行	キャリア教育機会の提供	体験機会の提供	プール指導	ICT機器やタブレット端末の活用支援	学校で行われる地域のスポーツ・文化活動	画・バンドや行事などの子供の企画	土日を活用した親子イベント	全育成のための活動や健康	子どもの非行防止や健康	広報誌づくりなどの子供の活動	子どもたちの地域での過ごし方や活動	まちづくりに関する活動	市民同士の交流や、活動	その他	無回答
就学前の子	47	25.5%	8.5%	38.3%	14.9%	38.3%	2.1%	8.5%	6.4%	4.3%	6.4%	29.8%	12.8%	8.5%	6.4%	17.0%	2.1%	12.8%						
小学生の子	63	23.8%	7.9%	34.9%	15.9%	42.9%	4.8%	11.1%	7.9%	4.8%	7.9%	31.7%	15.9%	9.5%	3.2%	14.3%	-	14.3%						
中学生の子	41	22.0%	2.4%	41.5%	9.8%	43.9%	7.3%	4.9%	4.9%	-	4.9%	24.4%	14.6%	26.8%	2.4%	19.5%	2.4%	9.8%						
高校生の子	35	11.4%	-	31.4%	-	37.1%	8.6%	8.6%	5.7%	2.9%	8.6%	31.4%	11.4%	17.1%	-	28.6%	2.9%	14.3%						

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

問 16 ふだん、あなたは、地域の子どもとどのように接していますか。(あてはまるものすべてに○) 【MA】

○「出会ったときは、あいさつをしている」の割合が 51.5%と最も高く、次いで「地域の子どもとかわりはない」の割合が 35.0%、「良いことをしているところを見たときは、ほめている」の割合が 18.7%、「悪いことをしているところを見たときは、注意をしている」の割合が 18.4%、「出会ったときは、声をかけたり、話をしている」の割合が 18.3%となっています。

今回調査



○平成 31 年度調査と比較すると、「地域の子どもとかかわりはない」の割合が 10.8 ポイント増加しています。その他、各選択肢の変化は大きなものではありませんが、「出会ったときは、あいさつをしている」をはじめ、各項目で少しずつポイントが低下しています。

【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
出会ったときは、あいさつをしている	51.5%	59.6%	54.2%
出会ったときは、声をかけたり、話をしている	18.3%	19.8%	22.7%
悪いことをしているところを見たときは、注意をしている	18.4%	23.3%	27.5%
良いことをしているところを見たときは、ほめている	18.7%	21.7%	26.7%
子どもが困ったときや悩んでいるときに相談にのっている	4.3%	4.9%	3.8%
こども会などの地域活動を一緒にしている	1.6%	3.4%	4.0%
子どもにスポーツ活動・文化活動などの指導をしている	2.3%	2.2%	2.0%
地域の祭りやイベントで子どもとふれあっている	8.7%	12.2%	8.7%
その他	2.7%	2.9%	1.4%
地域の子どもとかかわりはない	35.0%	24.2%	26.5%
無回答	1.6%	3.2%	6.7%

○【子どもの年代別】にみると、市民全体に比べ、就学前・小学生・中学生で「出会ったときは、あいさつをしている」、小学生・中学生・高校生で「子どもが困ったときや悩んでいるときに相談にのっている」でそれぞれ割合が 10 ポイント以上、高くなっています。
 ○また、小学生における「悪いことをしているところを見たときは、注意をしている」、中学生における「地域の祭りやイベントで子どもとふれあっている」、そして小学生・中学生における「出会ったときは、声をかけたり、話をしている」の割合も、それぞれ市民全体に比べ 10 ポイント以上、高くなっています。

【子どもの年代別比較】

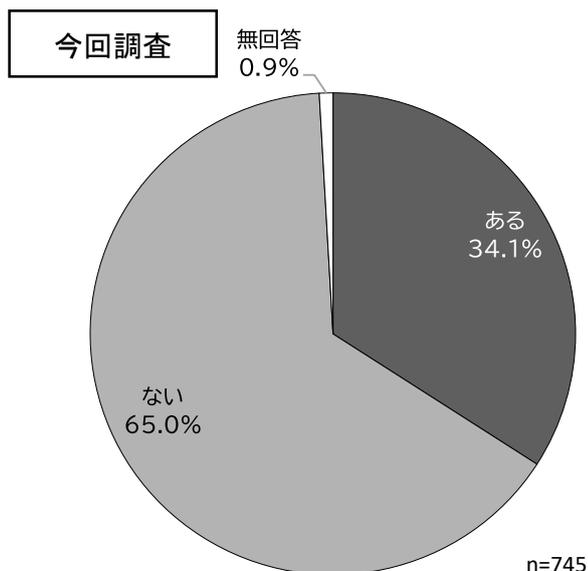
区 分	有効 回答 数 (件)	つ 出 会 っ た と き は 、 あ い さ つ を し て い る	け 出 会 っ た と き は 、 声 を か け た り 、 話 を し て い る	し ろ 悪 い こ と を し て い る と こ ろ を 見 た と き は 、 注 意 を し て い る	い ろ 良 い こ と を し て い る と こ ろ を 見 た と き は 、 ほ め て い る	の ん 子 ど も が 困 っ た と き や 悩 ん で い る と き に 相 談 に の っ て い る	を こ ど も と 一 緒 に し な い と こ ろ を 見 た と き は 、 注 意 を し て い る	て 文 子 ど も の 活 動 に な ら ず 、 指 導 を し て い る	子 地 域 の 祭 り や エ ン ト で 子 ど も と ふ れ あ っ て い る	そ の 他	は 地 域 の 子 ど も と か か わ り な い	無 回 答
16歳～19歳	14	42.9%	7.1%	-	-	-	-	-	14.3%	-	50.0%	-
20歳～29歳	32	12.5%	3.1%	3.1%	3.1%	3.1%	-	3.1%	9.4%	3.1%	68.8%	3.1%
30歳～39歳	64	43.8%	12.5%	10.9%	10.9%	6.3%	-	6.3%	3.1%	-	48.4%	-
40歳～49歳	91	52.7%	25.3%	18.7%	16.5%	9.9%	3.3%	4.4%	11.0%	2.2%	37.4%	-
50歳～59歳	120	44.2%	10.8%	10.0%	8.3%	5.0%	1.7%	0.8%	6.7%	0.8%	38.3%	2.5%
60歳～69歳	146	51.4%	12.3%	22.6%	19.2%	0.7%	2.1%	1.4%	7.5%	3.4%	32.2%	2.1%
70歳以上	275	61.5%	25.8%	24.0%	27.6%	3.6%	1.5%	1.8%	10.5%	4.0%	26.5%	1.8%

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

4. 大阪狭山市の生涯学習・文化・スポーツなどについて

問 17 あなたは、この1年くらいの間に、自分から進んで生涯学習・文化・スポーツなどの活動をしたことがありますか。(ひとつだけ○) 【SA】

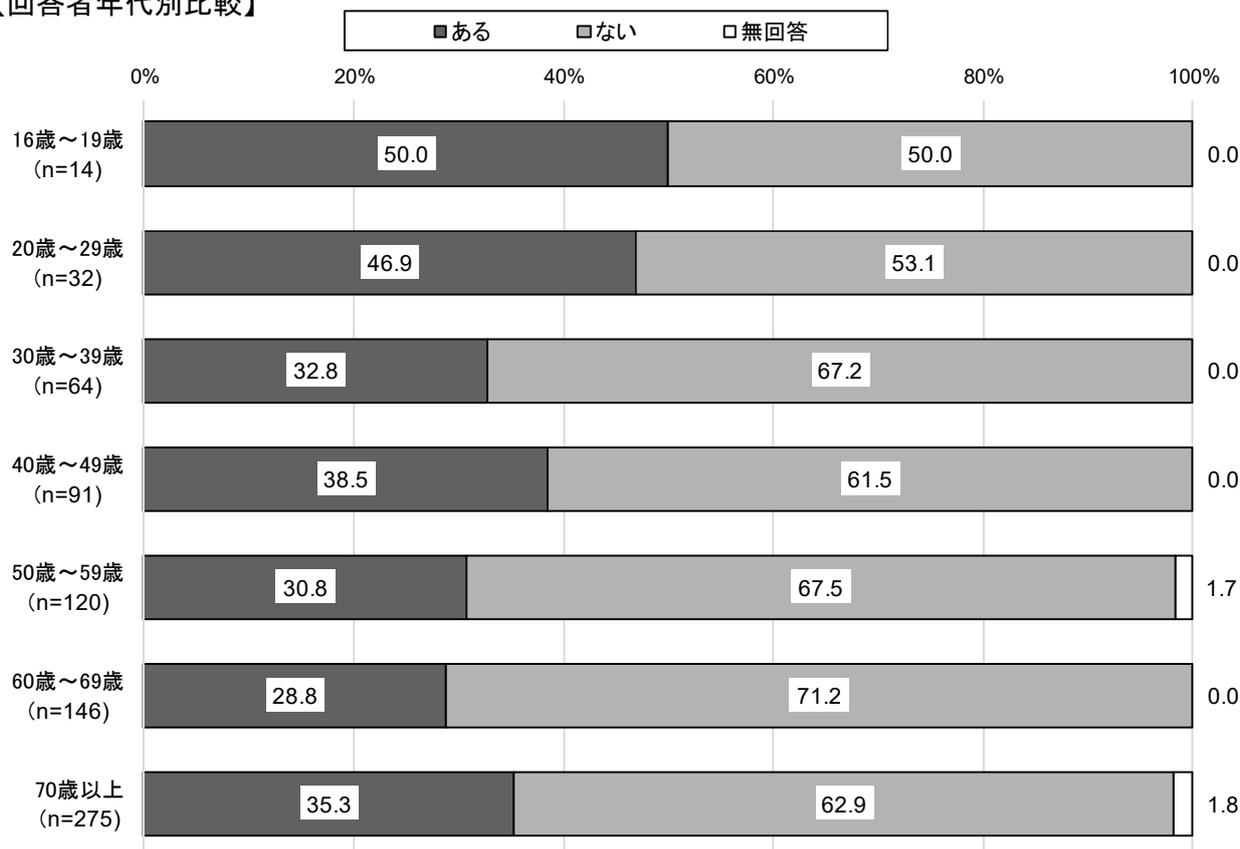
- 「ない」の割合が65.0%、「ある」の割合が34.1%となっています。
- 平成31年度調査と比較すると、「ある」の割合がやや増加しています。
- 【回答者の年齢別】にみると、10～20歳代で「ある」の割合が5割前後と高く、その他の年代では概ね3割前後となっています。



【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
ある	34.1%	33.8%	29.1%
ない	65.0%	65.5%	68.2%
無回答	0.9%	0.7%	2.8%

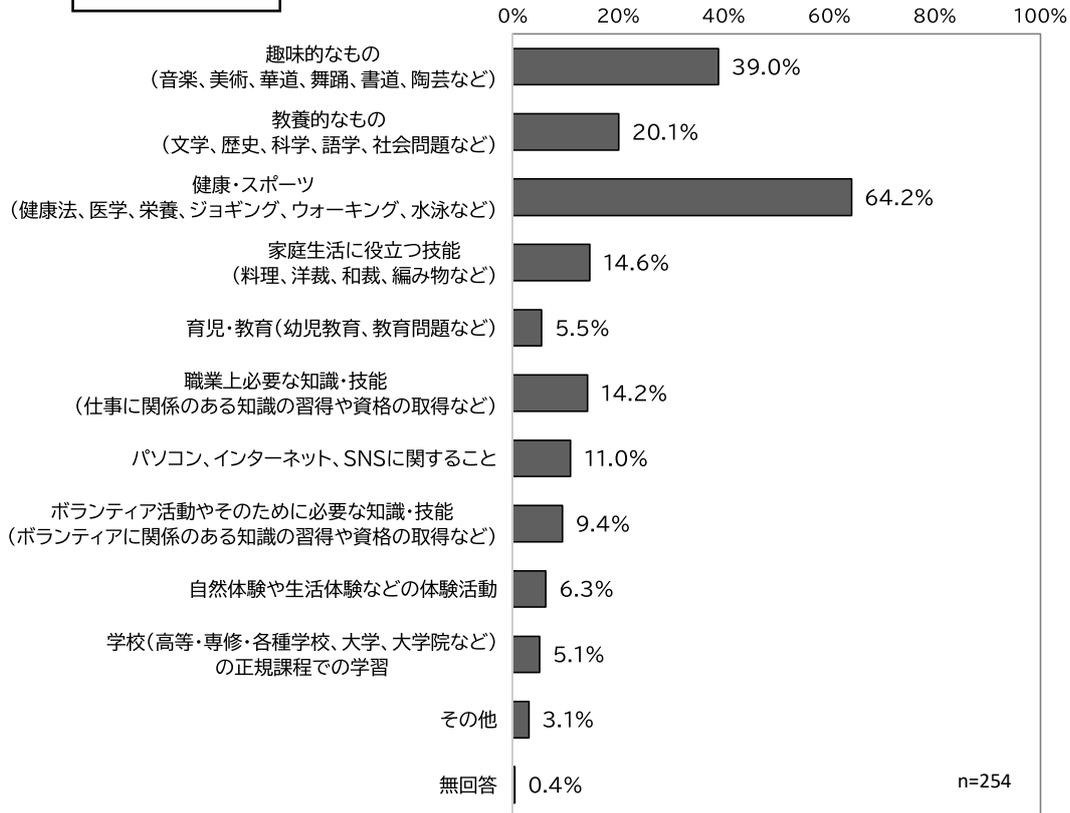
【回答者年代別比較】



問 17-1 【問 17 で「1. ある」と回答】 あなたは、どのような生涯学習・文化・スポーツなどの活動をしましたか。(あてはまるものすべてに○) 【MA】

○「健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、ウォーキング、水泳など)」の割合が 64.2%と最も高く、次いで「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など)」が 39.0%となっています。

今回調査



○平成 31 年度調査と比較すると、大きな差異はありませんが、「趣味的なもの」の割合がやや増加し、「ボランティア活動やそのために必要な知識・技能」「教養的なもの」「パソコン、インターネット、SNSに関すること」の割合がやや低下しています。

【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=254)	H31調査 (n=229)	H25調査 (n=147)
趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、陶芸など)	39.0%	33.6%	42.9%
教養的なもの(文学、歴史、科学、語学、社会問題など)	20.1%	24.5%	25.9%
健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、ウォーキング、水泳など)	64.2%	62.4%	63.3%
家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など)	14.6%	11.4%	8.8%
育児・教育(幼児教育、教育問題など)	5.5%	8.7%	6.8%
職業上必要な知識・技能(仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)	14.2%	15.7%	8.2%
パソコン、インターネット、SNSに関すること	11.0%	15.3%	16.3%
ボランティア活動やそのために必要な知識・技能(ボランティアに関係のある知識の習得や資格の取得など)	9.4%	14.8%	17.0%
自然体験や生活体験などの体験活動	6.3%	5.2%	7.5%
学校(高等・専修・各種学校、大学、大学院など)の正規課程での学習	5.1%	5.2%	5.4%
その他	3.1%	1.7%	1.4%
無回答	0.4%	2.6%	1.4%

○【回答者の年齢別】にみると、20～30 歳代で「趣味的なもの」「家庭生活に役立つ技能」「職業上必要な知識・技能」の割合、30 歳代では「教養的なもの」の割合がやや高くなっています。
○10 歳代では「学校の正規課程での学習」が「健康・スポーツ」とともに 57.1%であり、生涯学習経験の高さは、学生であることが影響していると考えられます。

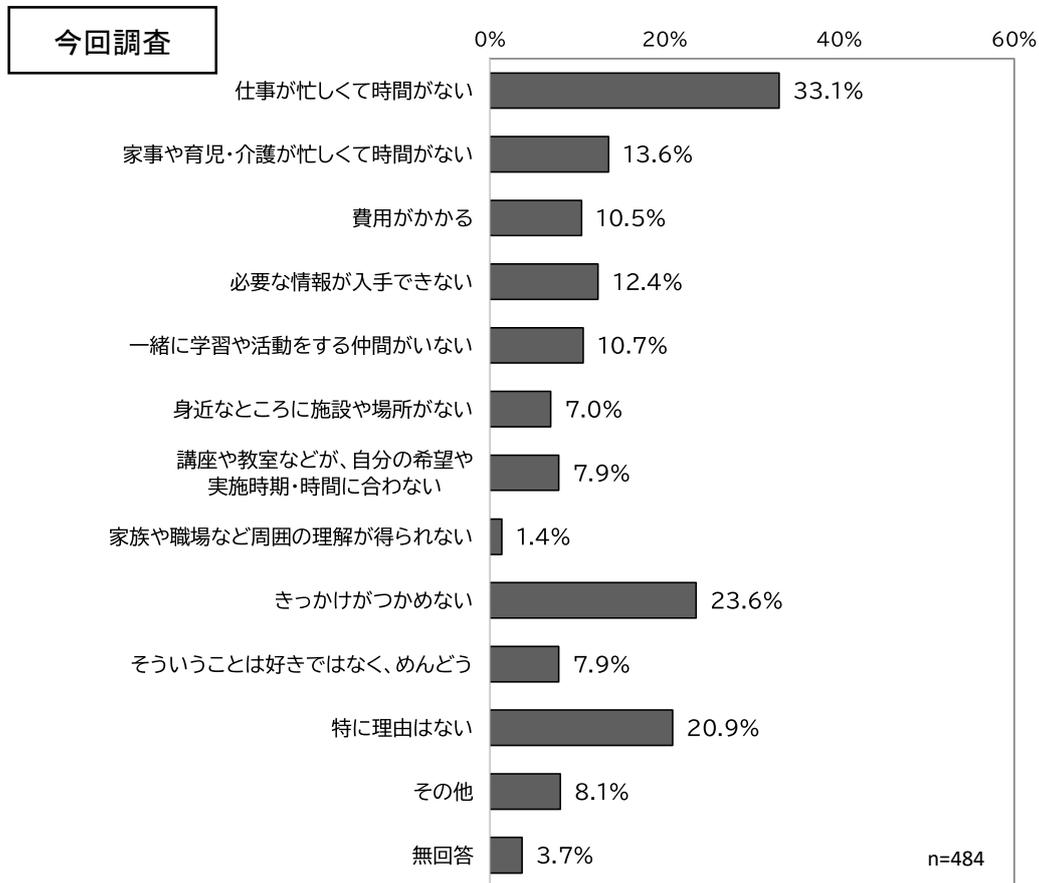
【回答者年代別比較】

区 分	有効 回答数 (件)	趣味的なもの (音楽、舞踊、書道、陶芸、美術、)	教養的なもの (文学、歴史、科学、語学、社会問題、)	健康・スポーツ (ジョギング、ウォーキング、水泳、)	家庭・生活に役立つ技能 (料理、洋裁、和裁、編み物、)	育児・教育 (幼児教育、)	職業上必要な知識・技能 (仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)	パソコン、インターネット、	ボランティア活動やそのために必要な知識・技能 (ボランティアに関係のある知識の習得や資格の取得など)	自然体験や生活体験などの体験活動	学校(高等・専修・各種学校、大学、大学院など)の正規課程での学習	その他	無回答
16歳～19歳	7	14.3%	28.6%	57.1%	14.3%	-	-	-	14.3%	-	57.1%	-	-
20歳～29歳	15	53.3%	33.3%	73.3%	26.7%	13.3%	26.7%	20.0%	-	26.7%	20.0%	6.7%	-
30歳～39歳	21	52.4%	28.6%	71.4%	28.6%	14.3%	42.9%	19.0%	4.8%	-	9.5%	-	4.8%
40歳～49歳	35	37.1%	17.1%	51.4%	14.3%	8.6%	22.9%	11.4%	-	8.6%	5.7%	2.9%	-
50歳～59歳	37	37.8%	18.9%	56.8%	10.8%	5.4%	16.2%	2.7%	8.1%	5.4%	2.7%	-	-
60歳～69歳	42	31.0%	16.7%	66.7%	2.4%	-	11.9%	19.0%	7.1%	2.4%	-	4.8%	-
70歳以上	97	40.2%	18.6%	68.0%	16.5%	4.1%	4.1%	8.2%	16.5%	6.2%	1.0%	4.1%	-

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

問 17-2 【問 17 で「2. ない」と回答】 あなたが、生涯学習・文化・スポーツなどの活動を行っていない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○） 【MA】

○「仕事が忙しくて時間がない」の割合が 33.1%と最も高く、次いで「きっかけがつかめない」が 23.6%、「特に理由はない」の割合が 20.9%となっています。



○平成 31 年度調査と比較すると、大きな差異はありませんが、「特に理由はない」「きっかけがつかめない」が 5 ポイント程度、増加しています。

【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=484)	H31調査 (n=444)	H25調査 (n=345)
仕事が忙しくて時間がない	33.1%	32.9%	41.4%
家事や育児・介護が忙しくて時間がない	13.6%	17.6%	12.5%
費用がかかる	10.5%	9.5%	8.4%
必要な情報が入手できない	12.4%	8.3%	17.7%
一緒に学習や活動をする仲間がいない	10.7%	9.2%	11.0%
身近なところに施設や場所がない	7.0%	6.8%	9.6%
講座や教室などが、自分の希望や実施時期・時間に合わない	7.9%	11.7%	19.1%
家族や職場など周囲の理解が得られない	1.4%	1.1%	0.9%
きっかけがつかめない	23.6%	18.5%	27.8%
そういうことは好きではなく、めんどろ	7.9%	10.8%	4.6%
特に理由はない	20.9%	15.1%	18.6%
その他	8.1%	5.0%	9.9%
無回答	3.7%	11.7%	2.6%

○【回答者の年齢別】にみると、市民全体に比べて、10 歳代では「そういうことは好きではなく、めんどろ」、20 歳代では「特に理由はない」「身近なところに施設や場所がない」の割合がやや高くなっています。
○これに対して 30～50 歳代では「仕事が忙しくて時間がない」「家事や育児・介護が忙しくて時間がない」など、時間の確保に関する割合が高くなっています。

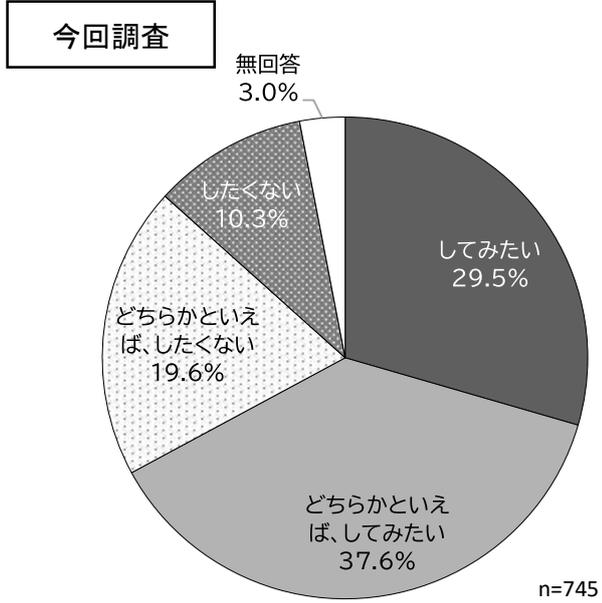
【回答者年代別比較】

区 分	有効 回答数 (件)	な い 事 が 忙 し く て 時 間 が	し 家 く 事 や 育 児 が ・ 介 護 が 忙	費 用 が か か る	な い 必 要 な 情 報 が 入 手 で き	一 緒 に 学 習 や 活 動 を す	場 所 近 な と こ ろ に 施 設 や	時 間 に 合 わ な い 実 施 時 期 ・ 自	講 座 や 教 室 な ど に あ い わ な い	理 解 が 得 ら れ な い 周 囲 の	き っ か け が つ か め な い	は な う く う め ん ど ろ は 好 き で	特 に 理 由 は な い	そ の 他	無 回 答
16歳～19歳	7	42.9%	-	-	14.3%	-	14.3%	14.3%	-	-	14.3%	42.9%	-	-	-
20歳～29歳	17	35.3%	-	11.8%	5.9%	11.8%	17.6%	-	-	-	29.4%	5.9%	47.1%	-	-
30歳～39歳	43	48.8%	32.6%	14.0%	25.6%	7.0%	2.3%	11.6%	-	-	18.6%	2.3%	18.6%	2.3%	-
40歳～49歳	56	60.7%	37.5%	10.7%	7.1%	7.1%	5.4%	12.5%	1.8%	1.8%	28.6%	10.7%	14.3%	1.8%	-
50歳～59歳	81	60.5%	14.8%	22.2%	17.3%	8.6%	8.6%	11.1%	2.5%	2.5%	25.9%	7.4%	12.3%	3.7%	1.2%
60歳～69歳	104	32.7%	7.7%	8.7%	9.6%	7.7%	9.6%	4.8%	2.9%	2.9%	26.0%	9.6%	20.2%	6.7%	4.8%
70歳以上	173	6.4%	6.4%	5.8%	11.0%	16.2%	5.2%	6.4%	0.6%	0.6%	20.8%	6.4%	26.0%	15.6%	6.9%

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

問 18 あなたは、今後、自分から進んで生涯学習・文化・スポーツなどの活動をしてみたいと思いますか。(ひとつだけ○) 【SA】

○「どちらかといえば、してみたい」が 37.6%、「してみたい」が 29.5%で、これらを合わせた活動志向は 67.1%と、実際に活動した割合(34.1%)を大きく上回ります。

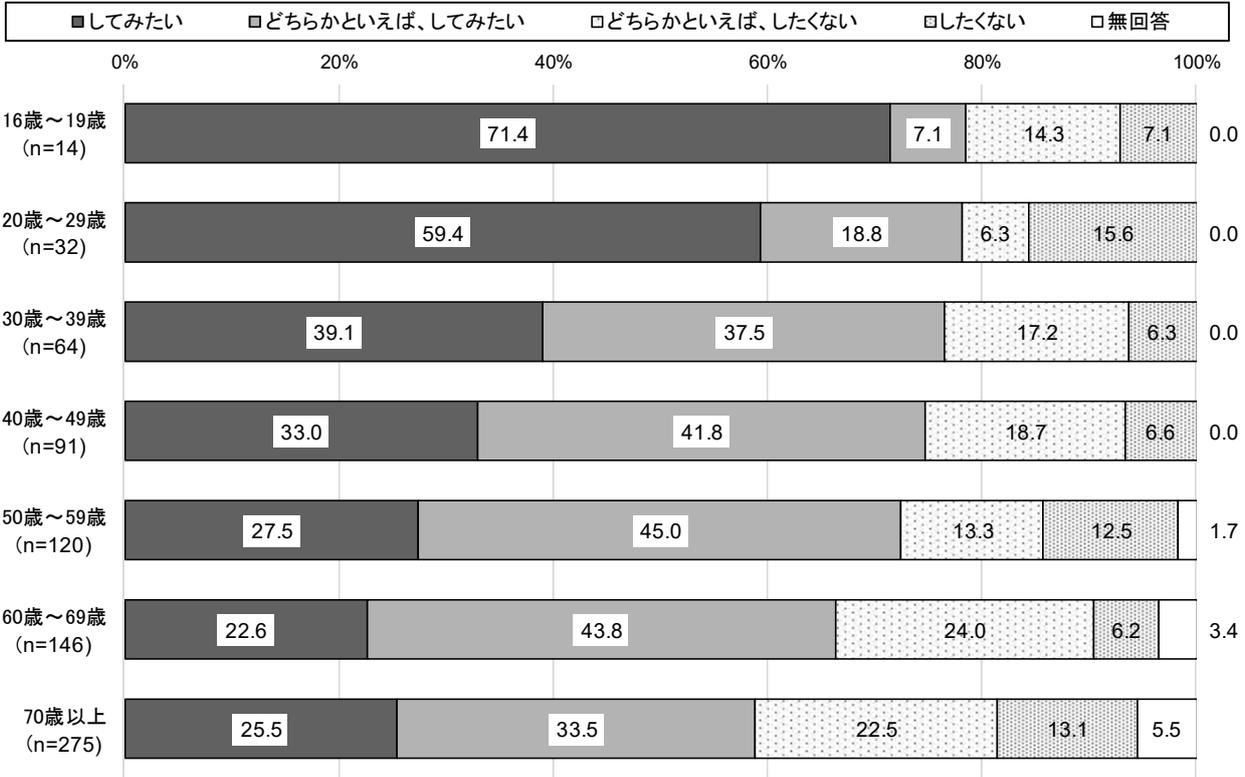


【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
してみたい	29.5%	30.7%	29.4%
どちらかといえば、してみたい	37.6%	38.3%	38.7%
どちらかといえば、したくない	19.6%	19.8%	6.7%
したくない	10.3%	6.9%	4.7%
無回答	3.0%	4.3%	3.8%

※H25調査のみに「わからない」16.6%がある。

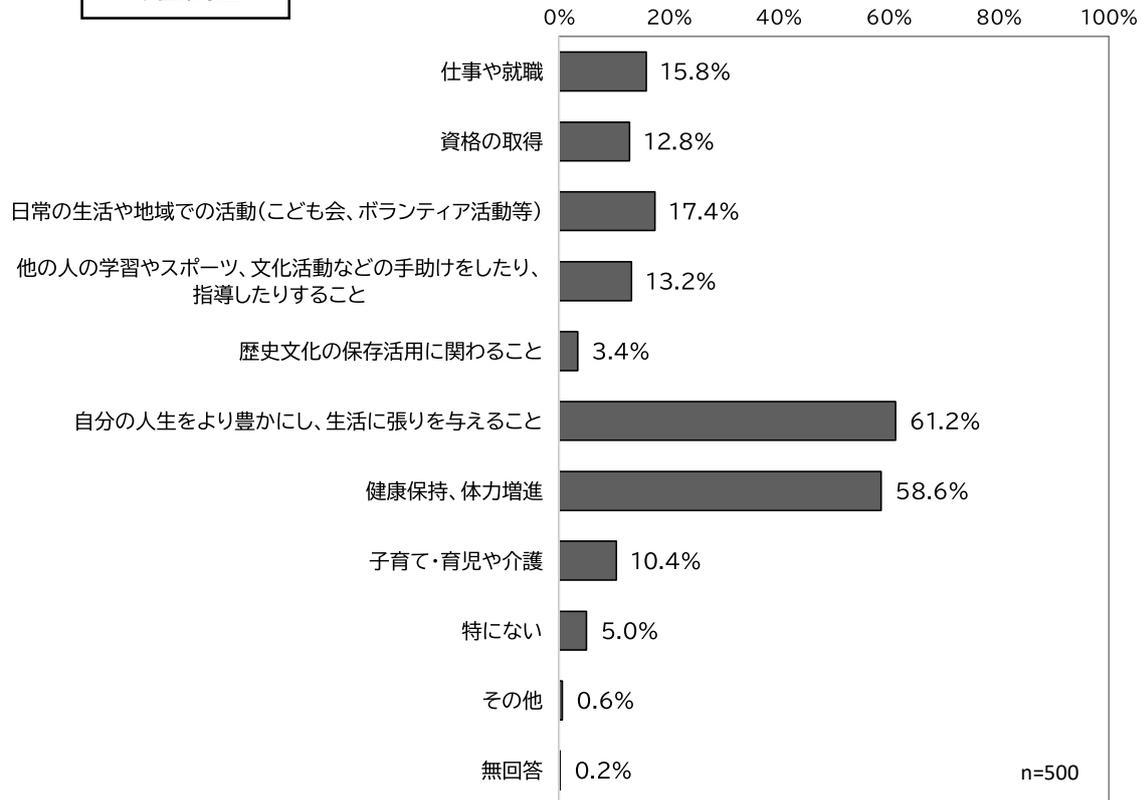
【回答者年代別比較】



問 18-1 【問 18 で「1. してみたい」または「2. どちらかといえば、してみたい」と回答】
あなたは、生涯学習・文化・スポーツなどの活動を通じて身につけた知識や技能、
経験をどのように生かしたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○） 【MA】

○「自分の人生をより豊かにし、生活に張りを与えること」の割合が 61.2%と最も高く、次いで「健康
保持、体力増進」の割合が 58.6%となっています。

今回調査



○平成31年度調査と比較すると、大きな差異はありませんが、「健康保持、体力増進」の割合が9ポイント増加しています。

【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=500)	H31調査 (n=468)
仕事や就職	15.8%	18.2%
資格の取得	12.8%	13.2%
日常生活や地域での活動(こども会、ボランティア活動等)	17.4%	20.5%
他の人の学習やスポーツ、文化活動などの手助けをしたり、指導したりすること	13.2%	11.5%
歴史文化の保存活用に関わること	3.4%	
自分の人生をより豊かにし、生活に張りを与えること	61.2%	65.4%
健康保持、体力増進	58.6%	49.6%
子育て・育児や介護	10.4%	12.8%
特にない	5.0%	2.8%
その他	0.6%	0.4%
無回答	0.2%	5.8%

○【回答者の年齢別】にみると、年齢が若い層ほど「仕事や就職」「資格の取得」の割合が高くなる傾向があります。

○また、20歳代では「他の人の学習やスポーツ、文化活動などの手助けをしたり、指導したりすること」、30歳代では「子育て・育児や介護」の割合が高くなっています。

【回答者年代別比較】

区 分	有効 回答数 (件)	仕事 や 就職	資格 の 取得	日常生活や地域での活動(こども会、ボランティア活動等)	他の人の学習やスポーツ、文化活動などの手助けをしたり、指導したりすること	歴史文化の保存活用に関わること	自分の人生をより豊かにし、生活に張りを与えること	健康保持、体力増進	子育て・育児や介護	特にない	その他	無 回 答
16歳～19歳	11	72.7%	45.5%	18.2%	9.1%	9.1%	36.4%	54.5%	18.2%	-	-	-
20歳～29歳	25	40.0%	24.0%	20.0%	28.0%	8.0%	64.0%	44.0%	16.0%	8.0%	-	-
30歳～39歳	49	40.8%	24.5%	16.3%	20.4%	4.1%	46.9%	53.1%	34.7%	6.1%	-	-
40歳～49歳	68	27.9%	27.9%	23.5%	13.2%	2.9%	58.8%	48.5%	13.2%	1.5%	-	-
50歳～59歳	87	13.8%	11.5%	9.2%	13.8%	4.6%	64.4%	59.8%	9.2%	5.7%	-	-
60歳～69歳	97	8.2%	5.2%	19.6%	12.4%	3.1%	68.0%	58.8%	8.2%	5.2%	1.0%	-
70歳以上	162	1.2%	4.3%	17.9%	9.3%	1.9%	62.3%	66.7%	2.5%	4.9%	1.2%	0.6%

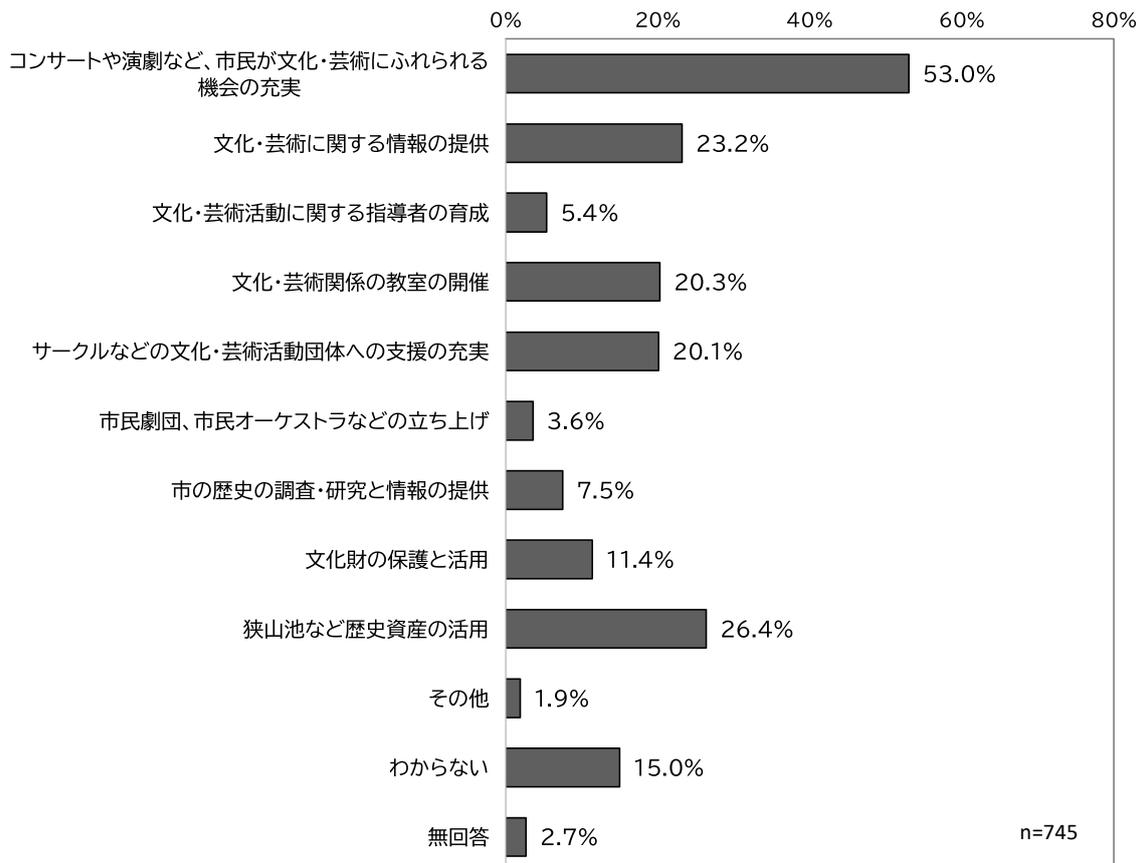
※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

問 19 あなたは、大阪狭山市の文化・芸術活動をより充実させていくために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(主なもの3つまで○) 【MA】

○「コンサートや演劇など、市民が文化・芸術にふれられる機会の充実」の割合が 53.0%と最も高く、次いで「狭山池など歴史資産の活用」が 26.4%、「文化・芸術に関する情報の提供」が 23.2% となっています。

○平成 31 年度調査との比較では、概ね同様の傾向で大きな差異はありません。

今回調査



【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
コンサートや演劇など、市民が文化・芸術にふれられる機会の充実	53.0%	55.5%	56.1%
文化・芸術に関する情報の提供	23.2%	25.2%	27.7%
文化・芸術活動に関する指導者の育成	5.4%	6.9%	10.9%
文化・芸術関係の教室の開催	20.3%	21.7%	18.8%
サークルなどの文化・芸術活動団体への支援の充実	20.1%	20.4%	17.4%
市民劇団、市民オーケストラなどの立ち上げ	3.6%	5.5%	5.7%
市の歴史の調査・研究と情報の提供	7.5%	7.2%	7.1%
文化財の保護と活用	11.4%	9.6%	8.3%
狭山池など歴史資産の活用	26.4%	26.8%	15.8%
その他	1.9%	0.7%	2.4%
わからない	15.0%	15.2%	15.6%
無回答	2.7%	5.3%	6.7%

○【回答者の年齢別】にみると、10 歳代で「狭山池など歴史資産の活用」、20 歳代で「わからない」の割合が他の年代に比べて高くなっています。

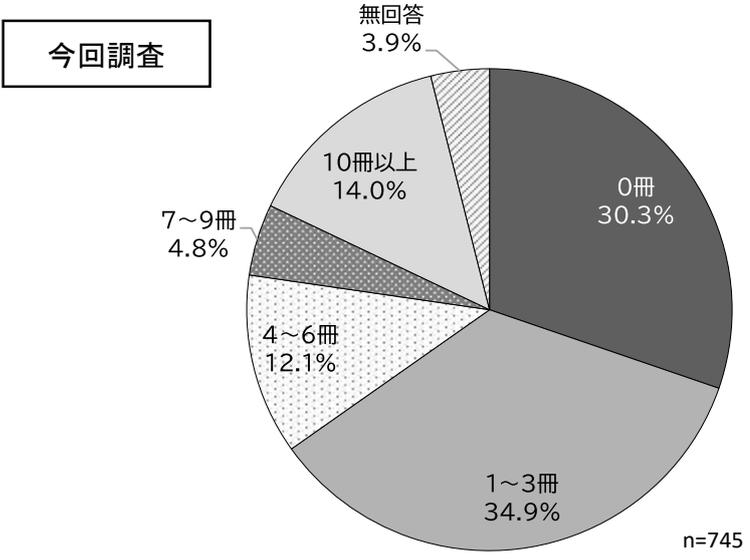
【回答者年代別比較】

区分	有効回答数（件）	にごん市市民や文化・芸術の機会	文化の提供	文化の指導・芸術者の育成に関する情報	文化の開催・芸術関係の教室	芸術活動団体への文化支援・充実	市民劇団などの立ち上げ	市の歴史の調査・研究	文化財の保護と活用	狭山池など歴史資産の活用	その他	わからない	無回答
16歳～19歳	14	50.0%	7.1%	14.3%	14.3%	14.3%	-	7.1%	14.3%	42.9%	-	14.3%	-
20歳～29歳	32	37.5%	6.3%	6.3%	15.6%	15.6%	6.3%	9.4%	15.6%	21.9%	3.1%	25.0%	-
30歳～39歳	64	60.9%	28.1%	1.6%	23.4%	14.1%	3.1%	6.3%	6.3%	21.9%	4.7%	14.1%	-
40歳～49歳	91	54.9%	31.9%	3.3%	28.6%	20.9%	3.3%	5.5%	9.9%	19.8%	2.2%	13.2%	-
50歳～59歳	120	60.0%	21.7%	4.2%	25.8%	14.2%	2.5%	6.7%	13.3%	29.2%	0.8%	12.5%	2.5%
60歳～69歳	146	56.2%	26.7%	8.2%	19.9%	24.0%	4.8%	6.2%	13.0%	27.4%	2.7%	15.1%	1.4%
70歳以上	275	48.0%	21.1%	5.5%	15.3%	22.9%	3.6%	9.5%	10.9%	27.6%	1.1%	15.6%	5.5%

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

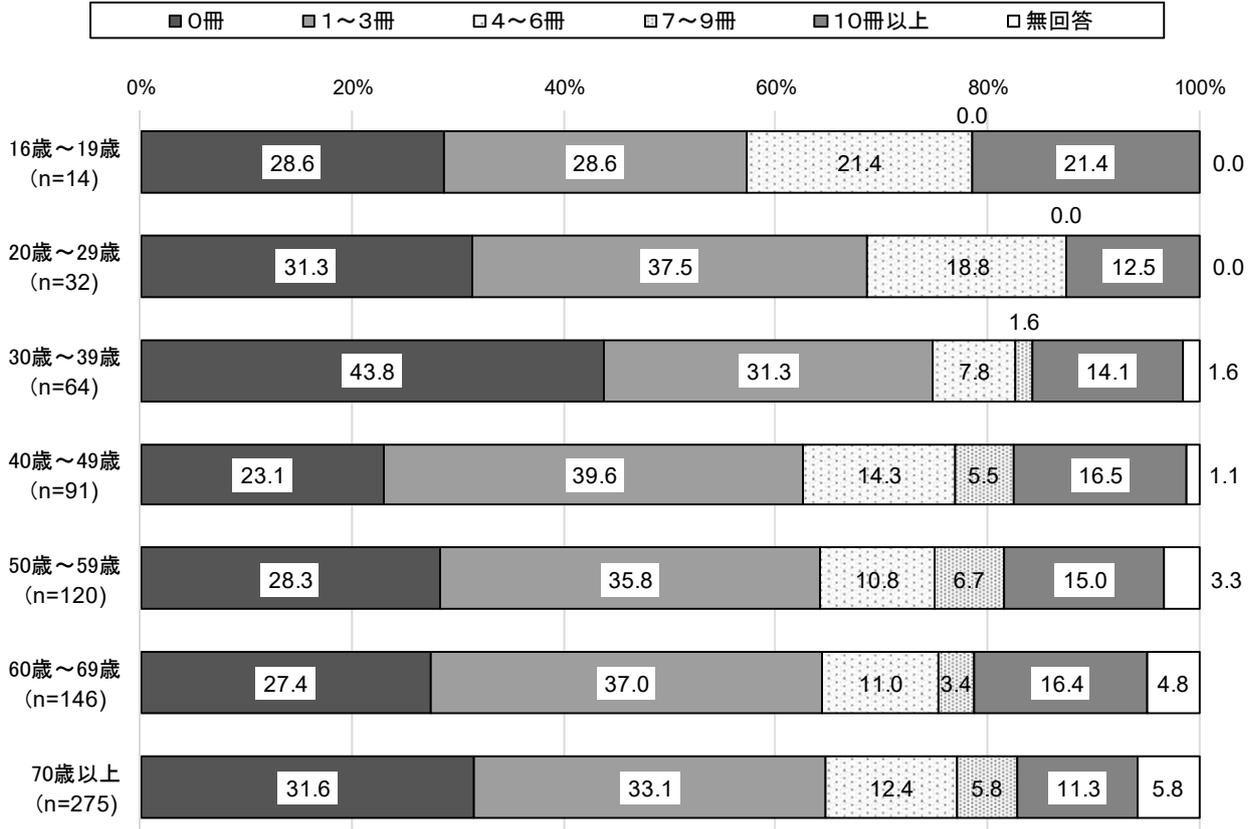
問 20 あなたは、この半年間で何冊くらい本（漫画、雑誌を除く）を読みましたか。（ひとつだけ○） 【SA】

○「1～3冊」の割合が 34.9%、「0冊」の割合が 30.3%となっています。



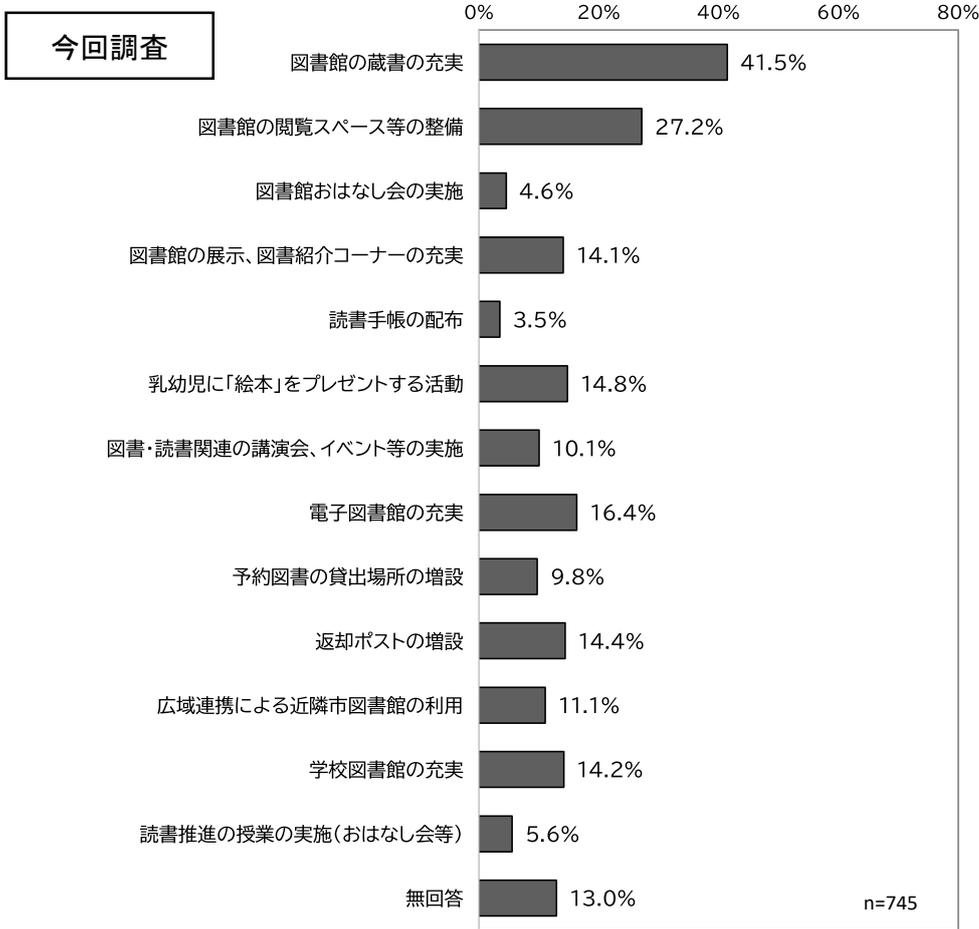
○【回答者の年齢別】にみると、30 歳代で「0冊」の割合が他の年代に比べて 10 ポイント以上、高くなっています。

【回答者年代別比較】



問 21 あなたは、大阪狭山市の読書環境をより充実させていくために、どのような取組みが効果的だと思いますか。(主なもの3つまで) 【MA】

○「図書館の蔵書の充実」の割合が41.5%と最も高く、次いで「図書館の閲覧スペース等の整備」が27.2%、「電子図書館の充実」の割合が16.4%となっています。



○【回答者の年齢別】にみると、年齢の若い層で「電子図書館の充実」の割合が高い傾向にあります。また、10歳代で「学校図書館の充実」、20～30歳代で「乳幼児に「絵本」をプレゼントする活動」の割合が他の年代に比べて高くなっています。

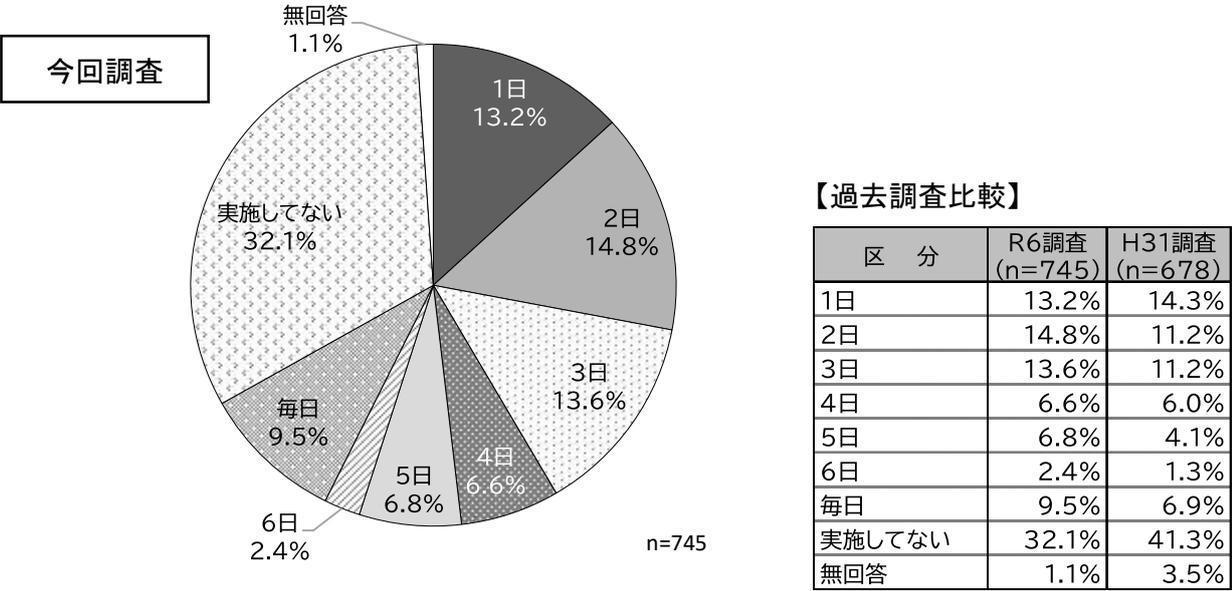
【回答者年代別比較】

区分	有効回答数(件)	図書館の蔵書の充実	等図書館の整備の閲覧スペース	施図書館おはなし会の実	介図書館の展示、図書紹介	読書手帳の配布	乳幼児に「絵本」をプレゼントする活動	会図書館・読書関連の講演	電子図書館の充実	増予約図書の貸出場所の	返却ポストの増設	図図書館の連携による近隣市	学校図書館の充実	(読書推進の授業の実施)	無回答
16歳～19歳	14	35.7%	35.7%	7.1%	-	7.1%	21.4%	7.1%	35.7%	14.3%	7.1%	-	50.0%	7.1%	-
20歳～29歳	32	37.5%	25.0%	6.3%	9.4%	3.1%	28.1%	3.1%	34.4%	15.6%	25.0%	12.5%	18.8%	3.1%	-
30歳～39歳	64	39.1%	37.5%	6.3%	9.4%	6.3%	26.6%	9.4%	25.0%	12.5%	18.8%	9.4%	10.9%	4.7%	3.1%
40歳～49歳	91	49.5%	34.1%	-	8.8%	-	14.3%	7.7%	26.4%	6.6%	23.1%	12.1%	18.7%	3.3%	3.3%
50歳～59歳	120	53.3%	30.8%	3.3%	6.7%	3.3%	7.5%	10.8%	17.5%	10.0%	19.2%	16.7%	14.2%	5.0%	6.7%
60歳～69歳	146	40.4%	31.5%	6.2%	18.5%	3.4%	18.5%	12.3%	17.8%	11.0%	13.7%	11.0%	13.0%	6.2%	9.6%
70歳以上	275	36.0%	18.9%	4.7%	19.3%	3.6%	10.9%	10.5%	6.9%	8.7%	7.6%	9.5%	12.0%	6.9%	25.5%

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

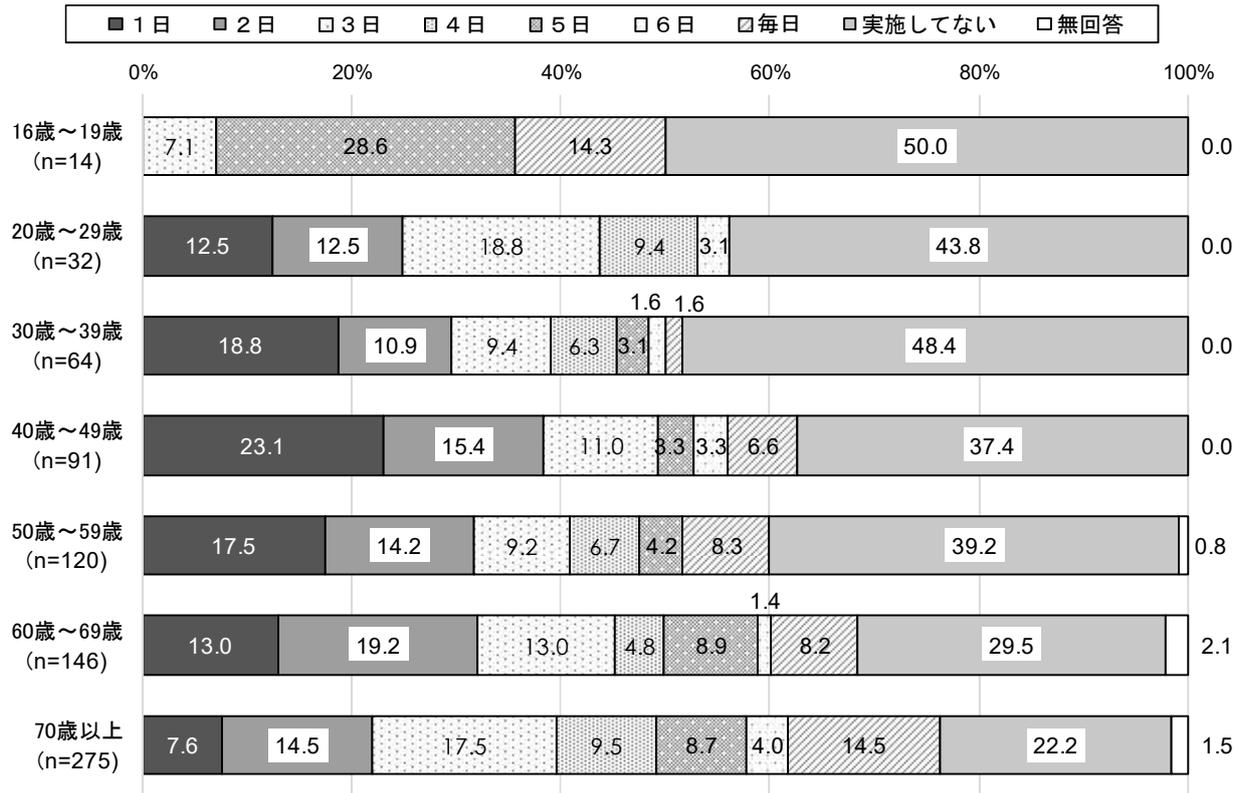
問 22 あなたは、1週間にどれぐらいスポーツ（ウォーキングから競技スポーツすべてを含みます）を実施されていますか。（ひとつだけ○） 【SA】

○「実施していない」の割合が32.1%、「2日」の割合が14.8%となっています。
 ○平成31年度調査との比較では、「実施していない」の割合が低下し、2日以上実施しているとの回答が少しずつ増加しています。



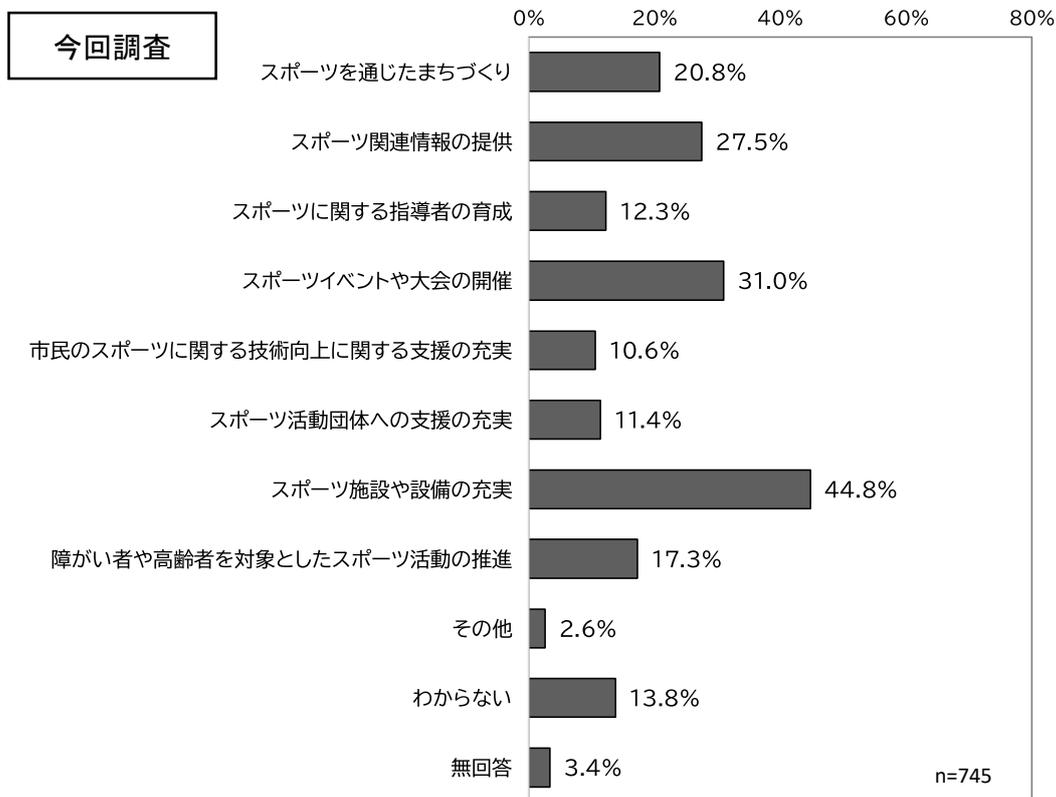
○【回答者の年齢別】にみると、10～30歳代など比較的若い年代で「実施していない」の割合が5割前後と、他の年代に比べて高くなっています。

【回答者年代別比較】



問 23 あなたは、大阪狭山市のスポーツ活動をより充実させていくために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(主なもの3つまで○) 【MA】

○「スポーツ施設や設備の充実」の割合が 44.8%と最も高く、次いで「スポーツイベントや大会の開催」が 31.0%、「スポーツ関連情報の提供」が 27.5%となっています。
○平成 31 年度調査との比較では、大きな差異はみられません。



【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
スポーツを通じたまちづくり	20.8%	20.9%	28.1%
スポーツ関連情報の提供	27.5%	28.2%	25.1%
スポーツに関する指導者の育成	12.3%	9.7%	14.6%
スポーツイベントや大会の開催	31.0%	30.2%	32.0%
市民のスポーツに関する技術向上に関する支援の充実	10.6%	12.2%	8.9%
スポーツ活動団体への支援の充実	11.4%	10.9%	11.5%
スポーツ施設や設備の充実	44.8%	42.2%	38.9%
障がい者や高齢者を対象としたスポーツ活動の推進	17.3%	17.3%	22.5%
その他	2.6%	1.6%	2.0%
わからない	13.8%	16.2%	13.8%
無回答	3.4%	4.9%	6.5%

- 【回答者の年齢別】にみると、比較的年連の若い層で「スポーツイベントや大会の開催」「スポーツ施設や設備の充実」の割合が高くなる傾向を示しています。
- 10歳代ではこのほか、「スポーツを通じたまちづくり」「スポーツ活動団体への支援の充実」の割合も他の年代に比べて高くなっています。

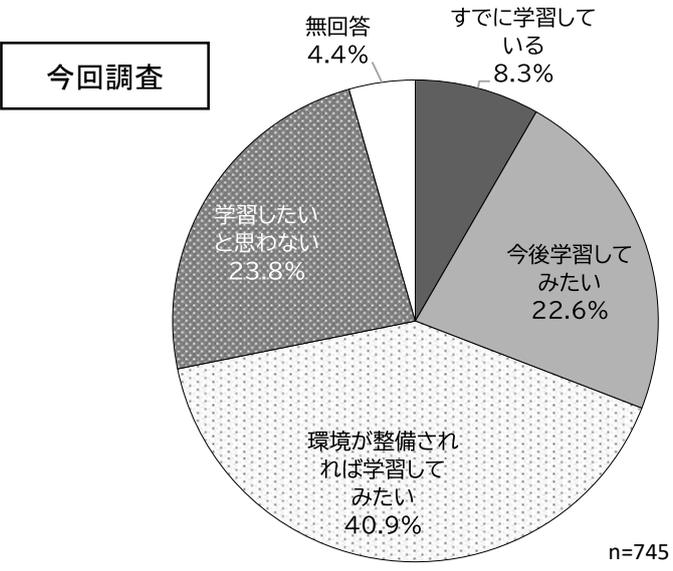
【回答者年代別比較】

区分	有効回答数（件）	スポーツを通じたまちづくり	スポーツ関連情報の提供	スポーツに関する指導者	スポーツイベントや大会の開催	市民の技術向上に関する支援	スポーツ活動団体への支援の充実	スポーツ施設や設備の充実	障がい者や高齢者を対象としたスポーツ活動の推進	その他	わからない	無回答
16歳～19歳	14	35.7%	21.4%	14.3%	50.0%	7.1%	21.4%	64.3%	14.3%	-	7.1%	-
20歳～29歳	32	9.4%	18.8%	6.3%	40.6%	9.4%	15.6%	50.0%	9.4%	3.1%	18.8%	-
30歳～39歳	64	29.7%	32.8%	14.1%	46.9%	6.3%	3.1%	57.8%	6.3%	6.3%	10.9%	-
40歳～49歳	91	25.3%	35.2%	8.8%	37.4%	7.7%	13.2%	49.5%	5.5%	5.5%	12.1%	-
50歳～59歳	120	25.8%	25.0%	6.7%	34.2%	8.3%	10.0%	45.0%	15.8%	2.5%	14.2%	1.7%
60歳～69歳	146	16.4%	28.8%	15.8%	28.1%	15.8%	15.1%	49.3%	19.2%	1.4%	15.1%	1.4%
70歳以上	275	17.8%	25.5%	14.5%	23.6%	11.3%	10.5%	36.7%	24.7%	1.5%	13.8%	7.6%

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

問 24 近年、『人生 100 年時代』と言われている中で、仕事に生かすための知識やスキルを学んだり、社会人が学び直すことが注目されていますが、あなたは今後、教育機関等（大学・公民館等）で学習したいと思いますか。（ひとつだけ○） 【SA】

○「環境が整備されれば学習してみたい」の割合が 40.9%、「学習したいと思わない」が 23.8%となっています。
○平成 31 年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

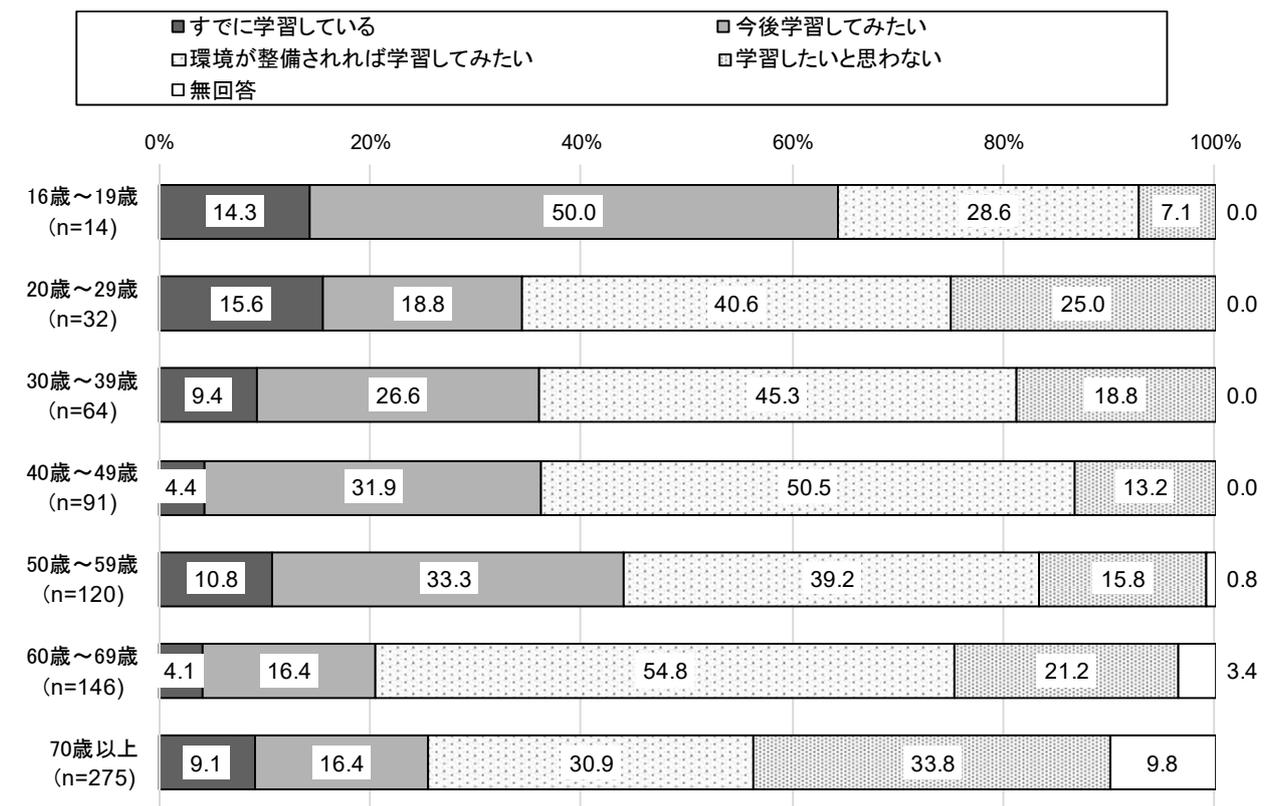


【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)
すでに学習している	8.3%	7.2%
今後学習してみたい	22.6%	24.3%
環境が整備されれば学習してみたい	40.9%	42.9%
学習したいと思わない	23.8%	20.5%
無回答	4.4%	5.0%

○【回答者の年齢別】にみると、10 歳代及び 50 歳代で「今後学習してみたい」の割合が、60 歳代では「環境が整備されれば学習してみたい」の割合が全体に比べ高くなっています。

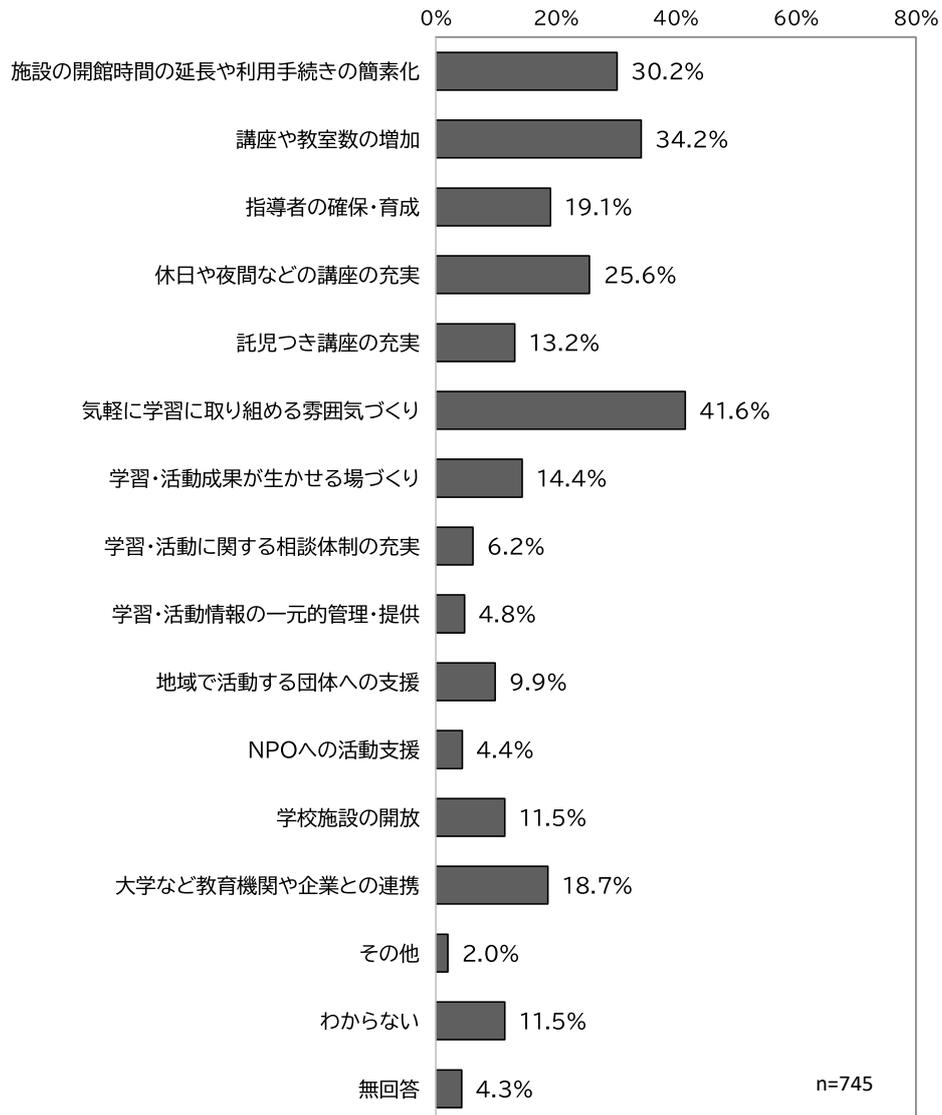
【回答者年代別比較】



問 25 あなたは、今後、生涯学習の一環として、人々が学びたいときに学べるようにするために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○） 【MA】

○「気軽に学習に取り組める雰囲気づくり」の割合が 41.6%と最も高く、次いで「講座や教室数の増加」が34.2%、「施設の開館時間の延長や利用手続きの簡素化」の割合が30.2%、「休日や夜間などの講座の充実」の割合が25.6%となっています。

今回調査



○平成 31 年度調査との比較では、大きな差異はみられません。

【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
施設の開館時間の延長や利用手続きの簡素化	30.2%	34.8%	37.2%
講座や教室数の増加	34.2%	30.1%	23.3%
指導者の確保・育成	19.1%	24.3%	27.7%
休日や夜間などの講座の充実	25.6%	21.5%	25.1%
託児つき講座の充実	13.2%	14.3%	17.8%
気軽に学習に取り組める雰囲気づくり	41.6%	42.9%	43.9%
学習・活動成果が生かせる場づくり	14.4%	18.9%	17.4%
学習・活動に関する相談体制の充実	6.2%	7.8%	8.7%
学習・活動情報の一元的管理・提供	4.8%	5.8%	8.7%
地域で活動する団体への支援	9.9%	14.7%	
NPOへの活動支援	4.4%	5.9%	7.3%
学校施設の開放	11.5%	13.7%	13.8%
大学など教育機関や企業との連携	18.7%	19.0%	18.6%
その他	2.0%	1.5%	1.4%
わからない	11.5%	8.7%	6.1%
無回答	4.3%	4.3%	5.1%

- 【回答者の年齢別】にみると、10 歳代では「施設の開館時間の延長や利用手続きの簡素化」「学校施設の開放」等の割合が他の年代に比べて高くなっています。
- また 20～30 歳代では「託児つき講座の充実」、30～50 歳代では「講座や教室数の増加」「休日や夜間などの講座の充実」の割合が高くなっています。
- 「大学など教育機関や企業との連携」についても、20～30 歳代や 50 歳代で比較的高い割合となっています。

【回答者年代別比較】

区 分	有効回答数 (件)	施設の 開館時間 の簡素化 延長	講座や 教室数の 増加	指導者の 確保・ 育成	休日や 夜間など の講座 の充実	託児つき 講座の 充実	気軽に 学習に 取り組 める気 雰囲気 づくり	学習・ 活動成 果が生 かせる 場づく り	学習・ 活動に 関する 相談 体制の 充実	学習・ 活動情 報の一 元的 管理・ 提供	地域で 活動す る団体 への 支援	NPO への 活動 支援	学校 施設 の 開放	大学 など 教育 機関 や 企 業 との 連 携	その他	わ か ら な い	無 回 答
16歳～19歳	14	50.0%	42.9%	28.6%	14.3%	14.3%	42.9%	21.4%	14.3%	7.1%	7.1%	7.1%	42.9%	35.7%	-	-	-
20歳～29歳	32	9.4%	21.9%	18.8%	31.3%	25.0%	37.5%	18.8%	9.4%	6.3%	9.4%	6.3%	9.4%	31.3%	3.1%	9.4%	-
30歳～39歳	64	35.9%	45.3%	26.6%	43.8%	23.4%	50.0%	17.2%	14.1%	4.7%	7.8%	3.1%	15.6%	23.4%	3.1%	14.1%	1.6%
40歳～49歳	91	37.4%	41.8%	14.3%	37.4%	16.5%	30.8%	13.2%	1.1%	4.4%	7.7%	4.4%	11.0%	19.8%	3.3%	15.4%	-
50歳～59歳	120	25.0%	46.7%	15.0%	43.3%	10.0%	31.7%	13.3%	2.5%	7.5%	10.0%	3.3%	10.0%	31.7%	1.7%	6.7%	1.7%
60歳～69歳	146	43.2%	38.4%	22.6%	25.3%	12.3%	53.4%	14.4%	7.5%	5.5%	7.5%	6.8%	11.0%	17.8%	0.7%	10.3%	2.7%
70歳以上	275	23.3%	22.5%	18.5%	9.8%	9.8%	41.5%	13.8%	6.2%	3.3%	12.4%	3.6%	10.5%	9.5%	2.2%	13.5%	9.1%

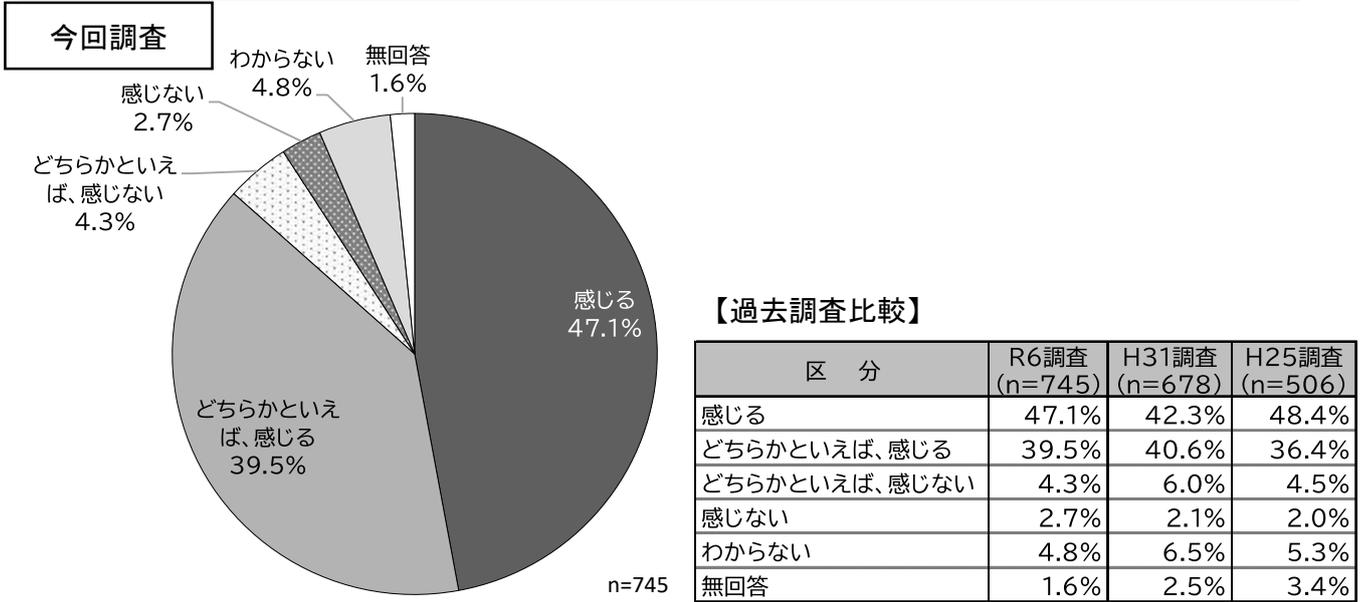
※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

5. 大阪狭山市への愛着や市の特長・誇りについて

問 26 あなたは、大阪狭山市に愛着を感じておられますか。(ひとつだけ○) 【SA】

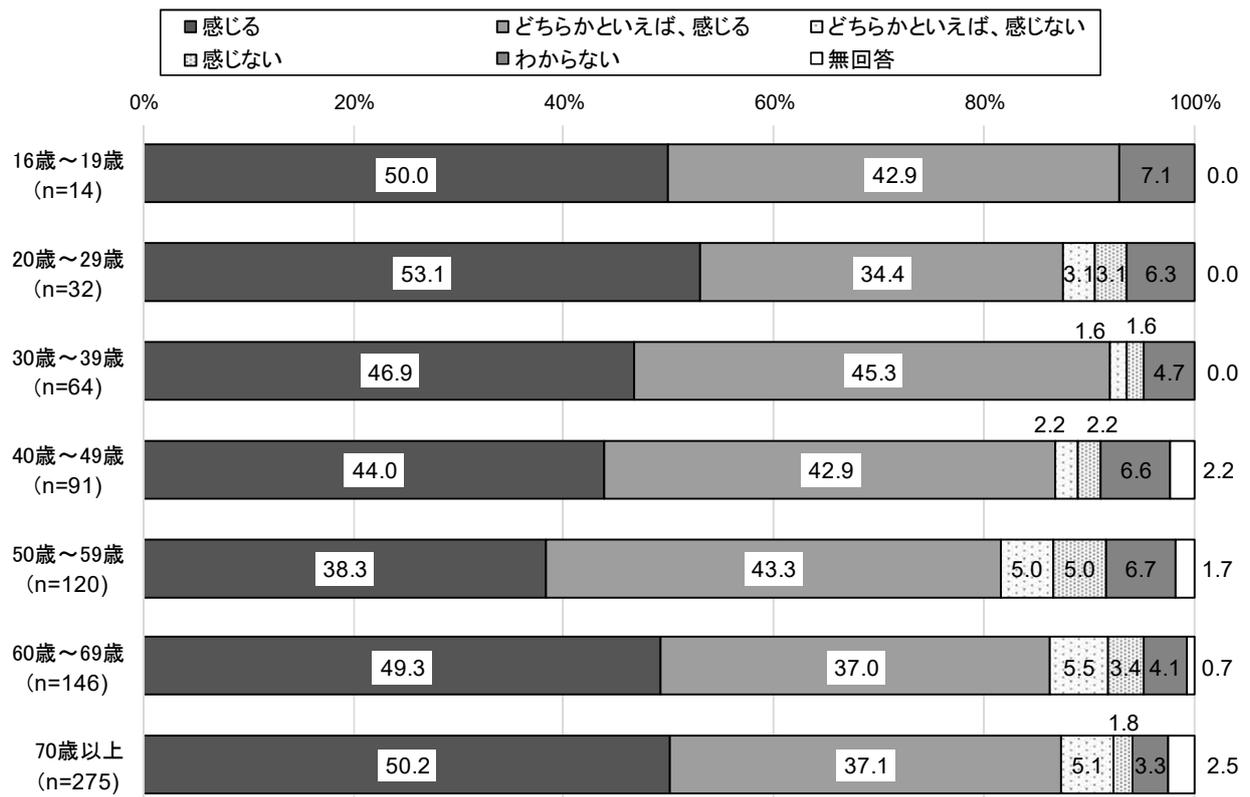
○「感じる」の割合が47.1%、「どちらかといえば、感じる」の割合が39.5%で、あわせて86.6%が愛着を感じると回答しています。

○平成31年度調査との比較では、大きな差異はみられません。



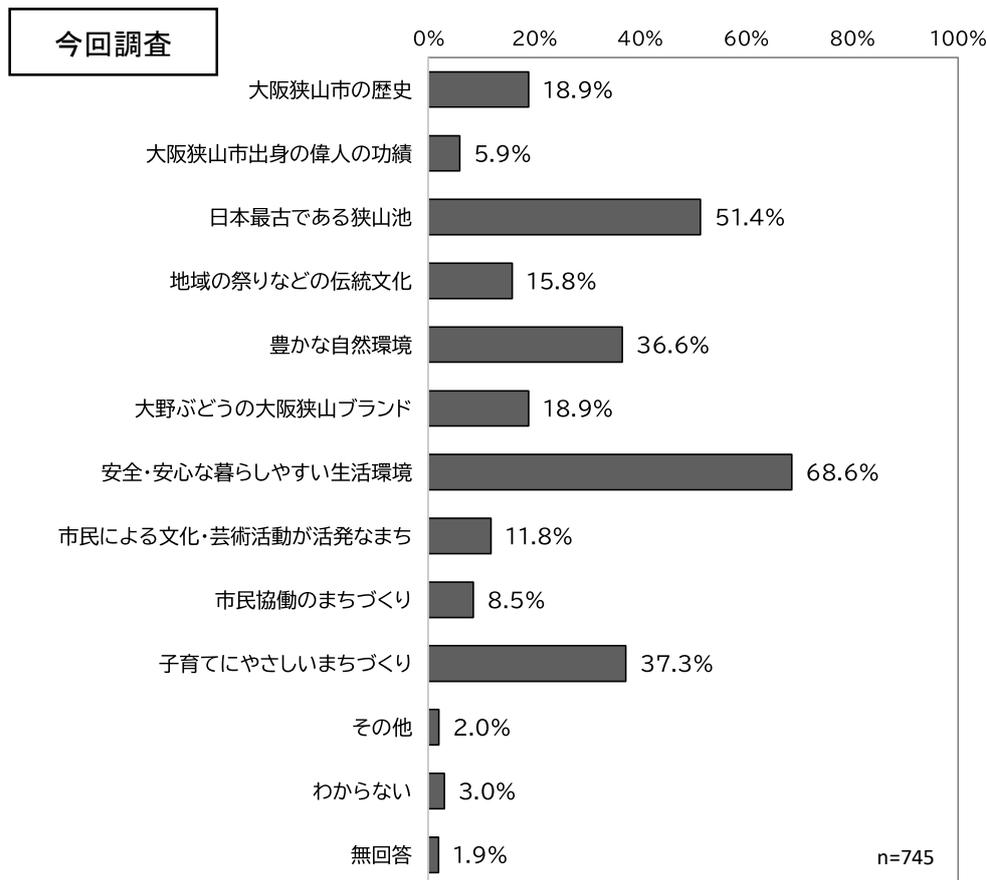
○【回答者の年齢別】にみると、全ての年代で「感じる」と「どちらかといえば、感じる」を合わせた割合が8割を超えて高くなっています。

【回答者年代別比較】



問 27 大阪狭山市の特長や誇りとして、あなたが大事にしていきたいと思うことはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○) 【MA】

- 「安全・安心な暮らしやすい生活環境」の割合が 68.6%と最も高く、次いで「日本最古である狭山池」が 51.4%、「子育てにやさしいまちづくり」が 37.3%、「豊かな自然環境」の割合が 36.6%となっています。
- 平成 31 年度調査との比較では、「豊かな自然環境」の割合がやや低下していますが、全体として大きな差異はみられません。



【過去調査比較】

区 分	R6調査 (n=745)	H31調査 (n=678)	H25調査 (n=506)
大阪狭山市の歴史	18.9%	16.7%	20.0%
大阪狭山市出身の偉人の功績	5.9%	4.9%	4.7%
日本最古である狭山池	51.4%	53.1%	48.2%
地域の祭りなどの伝統文化	15.8%	16.1%	16.2%
豊かな自然環境	36.6%	42.0%	39.3%
大野ぶどうの大阪狭山ブランド	18.9%	18.1%	20.8%
安全・安心な暮らしやすい生活環境	68.6%	64.7%	67.2%
市民による文化・芸術活動が活発なまち	11.8%	12.8%	13.2%
市民協働のまちづくり	8.5%	9.7%	9.9%
子育てにやさしいまちづくり	37.3%	36.9%	36.8%
その他	2.0%	1.8%	3.4%
わからない	3.0%	4.0%	4.7%
無回答	1.9%	2.2%	4.0%

- 【回答者の年齢別】にみると、10 歳代で「日本最古である狭山池」の割合が 85.7%と極めて高くなっています。
- また、10～20 歳代で「地域の祭りなどの伝統文化」、20～30 歳代で「子育てにやさしいまちづくり」の割合が市民全体の回答に比べ高くなっています。

【回答者年代別比較】

区分	有効回答数(件)	大阪狭山市の歴史	大阪狭山市出身の偉人の大活躍	日本最古である狭山池	地域の祭りなどの伝統文化	豊かな自然環境	大野がどうの大阪狭山ブランド	安全・安心な暮らしやす生活環境	市民による文化・芸術活動が活発なまち	市民協働のまちづくり	子育てにやさしいまちづくり	その他	わからない	無回答
16歳～19歳	14	28.6%	7.1%	85.7%	28.6%	28.6%	42.9%	64.3%	7.1%	7.1%	35.7%	-	-	-
20歳～29歳	32	18.8%	9.4%	46.9%	37.5%	37.5%	18.8%	75.0%	6.3%	9.4%	50.0%	3.1%	6.3%	-
30歳～39歳	64	10.9%	4.7%	45.3%	15.6%	32.8%	23.4%	76.6%	9.4%	6.3%	67.2%	-	4.7%	-
40歳～49歳	91	12.1%	4.4%	50.5%	16.5%	34.1%	19.8%	60.4%	7.7%	5.5%	41.8%	3.3%	3.3%	-
50歳～59歳	120	15.8%	9.2%	49.2%	9.2%	35.8%	16.7%	69.2%	9.2%	6.7%	27.5%	5.0%	3.3%	3.3%
60歳～69歳	146	19.9%	7.5%	48.6%	14.4%	36.3%	23.3%	75.3%	13.7%	6.8%	34.9%	1.4%	1.4%	1.4%
70歳以上	275	23.6%	4.0%	54.5%	16.4%	39.3%	15.3%	65.5%	14.9%	11.6%	33.5%	1.1%	2.9%	2.9%

※最も色が濃いものから第一位、第二位、第三位の項目に網かけをしている。

6. 教育に関する施策全般について

問 28 その他、ご意見などがございましたら、ご自由にご記入ください。

回収した 745 件中、127 件 (17.0%) で何らかの記載がありました (「特になし」などの記載を除く)。なお、1 件の回答で複数の意見・提案をしている場合があり、その場合、それぞれの分野に計上しているため、件数の合計が回答数の 127 件を超えています。

具体的な意見については、同様の意見のとりまとめ、長文の主旨の抜粋など、整理をしている場合があります。

「教育体制・教育内容」に多くの意見。子育てや生涯学習にも多数の提案・要請

- ・大きな分類でみると、最も多くの意見・提案があったのが「(1) 教育体制・教育内容」に関してで 38 件、以下「(2) 子育て・子育て」(21 件)、「生涯学習」(17 件)が続いています。
- ・「(7) その他」については、教育や生涯学習の分野に限らず、まちづくり全般や教育・生涯学習以外の分野に関わるもの (27 件)、教育政策等に関する感謝や応援 (10 件)、アンケートの対象や実施手法等に関わるものでした。

分類	件数
(1)教育体制・教育内容	38
(2)教職員	2
(3)子育て・子育て	21
(4)教育理念	10
(5)教育環境(主にハード面)	6
(6)生涯学習	17
(7)その他	45

【分類ごとの主な意見例】

(1) 教育体制・教育内容 (34 件)	
①いじめ、不登校について (5 件)	
意見例	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止への教員の責務の明確化 ・被害者・加害者両方へのケア ・無記名アンケートの実施
②子どもの安全・健康について (5 件)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の自転車通学の安全性・マナー向上・ ・スポーツ傷害予防活動の提案
③教員の確保・適正配置について (4 件)	
意見例	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりのある職員の確保 ・正規職員の確保
④英語教育について (4 件)	
意見例	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育の充実 ・グローバル教育の充実

⑤部活動について（3件）	
	・クラブ活動の充実
⑥社会体験・多世代交流について（3件）	
意見例	・（大人の仕事等の）見学・体験機会の充実 ・（子どものための）多世代交流の機会づくり
⑦教育機会について（2件）	
意見例	・経済状況に関わらない教育機会の確保 ・（DXだけでなく）対面型コミュニケーションの充実
⑧学校の受入れ時間について（2件）	
	・（体育館等を活用した学校受入時間の拡大（朝、長期休暇時等）
⑨学校教育全般について（2件）	
	・公的な教育力の高いまちづくり
⑩道徳・マナー等について（2件）	
	・学校における道徳心、コミュニケーション能力の育成
⑪インクルーシブ教育について（2件）	
	・通級・支援学級が先生の負担にならないような人員配置・環境整備
⑫その他（3件）	
意見例	・宿題の削減 ・先生と生徒の対話によるルール（校則）づくり ・教材のコンパクト化

（2）教職員（2件）	
①人材の育成について（2件）	
意見例	・教育人材のレベルアップ ・教員の資質向上

（3）子育て・子育て（21件）	
①保護者支援について（5件）	
	・保護者の悩み事に関するセミナーの開催 ・子育て世代に対する経済的支援
②地域との連携について（4件）	
	・子育てサロンの充実 ・高齢者と子どもなど、多世代がふれあう機会 ・虐待、子どもの自死予防への地域・関係機関の連携
③公園・遊び場について（4件）	
	・子どもが安心して遊べる公園・遊具の改修・整備
④子育て全般について（3件）	
意見例	・子育て世帯が移住してくるまちに
⑤子育て支援施設について（2件）	
意見例	・子育て支援施設への支援 ・（図書館との複合化等）ぽっぽ園の有効活用
⑥家庭教育について（2件）	
意見例	・家庭教育を基本としたしつけ、教育 ・親（保護者）の教育

⑦その他（1件）	
意見例	・基本的なマナー・道徳の育成

（4）教育理念等（10件）	
①教育のあり方について（8件）	
意見例	・教育の原点回帰 ・子どもの個性を伸ばす教育
②その他（2件）	
	・現状の守り・改良ではなく、将来を見据えた教育が充実したまちに

（5）教育環境（6件）	
①施設・設備の整備について（3件）	
意見例	・教室以外の居場所の充実 ・老朽化が進む教育施設の早期整備
②その他（3件）	
意見例	・持ち帰るタブレットの使用環境への配慮 ・学校間の子ども数の偏在是正 ・学校給食の充実・無償化

（6）生涯学習（17件）	
①スポーツ施設について（6件）	
意見例	・施設・設備の充実（テニスコートのナイター設備、ウォーキングの環境等） ・自由に遊びや球技等ができる場所づくり・確保 ・民間スポーツ事業者への支援
②市民交流について（4件）	
意見例	・公共施設や空き教室を使った多世代交流の機会づくり ・高齢者が外出するきっかけづくり
③学習施設について（4件）	
	・さやかホール、公民館等の施設充実
④学習機会について（2件）	
意見例	・ユニークな講座の開催 ・学習事業対象者の再定義（子育て世帯の学習機会づくり等）
⑤関係団体（組織）の協働について（1件）	
	・市民団体、企業、学校、行政の協働による人材育成、人とまちのマッチング支援

（7）その他（45件）	
①まちづくり全般・他分野について（27件）	
意見例	・インフラ、医療・福祉、商業・賑わい、狭山池の活用、自然の保全等
②まちづくりへの応援、感謝等（10件）	
意見例	・意見を聞くことや日頃のまちづくりへの感謝、今後の取組への期待等
③アンケートについて（6件）	
意見例	・子ども（当事者）へのアンケート、調査結果の公表
④大学等について（2件）	
	・大学等の誘致